

2023 年度 福祉保育学科

授 業 概 要

学校法人 昌賢学園
群馬社会福祉専門学校

福祉保育学科 開講科目

区分		科 目	単位	種類	年次
基礎科目	外国語以外	哲学	2	講義	1年
		日本国憲法	2	講義	2年
		キャリアデザイン	1	演習	1年
		情報リテラシー	2	演習	2年
	外国語	英語リテラシー	2	演習	2年
	体育	健康教育	1	講義	2年
		体育実技	1	実技	1年
保育の本質・目的に関する科目		保育原理	2	講義	1年
		教育原理	2	講義	1年
		子ども家庭福祉	2	講義	1年
		社会福祉	2	講義	2年
		子ども家庭支援論	2	講義	2年
		社会的養護Ⅰ	2	講義	1年
		保育者論	2	講義	1年
		児童福祉特殊*	2	講義	2年
保育の対象の理解に関する科目		保育の心理学	2	講義	1年
		子ども家庭支援の心理学	2	講義	1年
		子どもの理解と援助	1	演習	2年
		子どもの保健	2	講義	1年
		子どもの食と栄養	2	演習	2年
		障害者福祉論Ⅰ	2	講義	1年
		障害者福祉論Ⅱ	2	講義	2年
保育の内容・方法の理解に関する科目		保育の計画と評価	2	講義	2年
		保育内容総論	1	演習	1年
		健康	1	演習	1年
		人間関係	1	演習	1年
		環境	1	演習	1年

	言葉	1	演習	1年
	表現	1	演習	1年
	音楽Ⅰ	4	演習	1年
	音楽Ⅱ	2	演習	2年
	図画工作Ⅰ	1	演習	1年
	図画工作Ⅱ*	1	演習	2年
	リトミック*	1	演習	2年
	幼児体育	1	演習	2年
	乳児保育Ⅰ	2	講義	1年
	乳児保育Ⅱ	1	演習	2年
	子どもの健康と安全	1	演習	2年
	障害児保育	2	演習	1年
	社会的養護Ⅱ	1	演習	2年
	子育て支援	1	演習	2年
	児童文化*	1	演習	2年
	保育技術Ⅰ	2	演習	1年
	保育技術Ⅱ	2	演習	2年
保育実習	保育実習Ⅰ	4	実習	1年
	保育実習指導Ⅰ	2	演習	1年
	保育実習Ⅱ	2	実習	2年
	保育実習Ⅲ	2	実習	2年
	保育実習指導Ⅱ	2	演習	2年
	保育実習指導Ⅲ	2	演習	2年
総合演習	保育実践演習	2	演習	2年
その他	障害者スポーツ	1	演習	2年
	障害者支援	1	演習	2年

* 選択科目 履修希望者が規定に満たない場合は開講なし。

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 哲 学		授業の種類 講 義	授業担当者 鈴木 利定
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)			
[授業の目的・到達目標] 「人間とは何か」我々はこれまで幾度となくこの問いかけを繰り返してきた。中国の思想家たちは、この問いにどのように解答しているのか。そしてそれぞれの解答に対して自分自身はどう思うのかを自ら問うてみる学問をねらいとしている。 [授業全体の内容の概要] 孔子は人間いかに生くべきかという問いについて、人間によるべき新しい「道」をどのように考えたか。仁と礼について、特に最近では礼儀をわきまえないという声もある。つまり「形式的な礼など無用だ。真心さえ持っていればそれでよいのでは虚礼廃止だ。」ということもあるが、孔子の説いた礼をもとに現代におけるあり方を学ぶ。プラトンと同じく孔子は、理想国家を徳ことにより政治のあり方を説いた。孔子の説いた政治道徳の現代にあてはまることを学ぶ。老子・荘子は孔子と並ぶ中国の代表的な思想家である。両者は全く相反する経口すら持っている。この両者の思想を比較し、学ぶ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 科目オリエンテーション/論語序説「史記」孔子出家で孔子の履歴を知る。学ぶことの意義、孝弟について、文を学ぶことは人倫の大きな者について、信と義について。君子と貧しきものの生き方。学問について 2. 政とは如何なるべきか。志学より従心までの心持。孝と敬と。人物の観察法。身を正すこと。内省。志の大切さ。道に志す。性善論。信の大切さ。 3. 教育論、礼に反する儀式について。僭し泰れに旅したこと。祭りと祭神について。射にみる古道について 4. 大学の道についての孔子の説明。大学辛句(右経一章)明德を明らかにするを積く。民を新に積く。 (右伝の三章、右伝の二章) 5. 至善に止まるを積く。本末を積く。(右伝の三章、右伝の四章)心を正しくして身を脩めて、家を斉う。 (右伝の七章、右伝の八章) 6. 家を斉へて国を治むるを積く。(右伝の十章) 朱子の中庸に対する解説であり、孔子の孫子思が道学のその伝を失わんことを優えて作るより説きおこす。(中庸章句序) 7. 道に対する知者、愚者、賢者、不肖のかかわりを論ずる。(右章第四章、五章、六章) 8. 顔回が中庸をえらび人生に処したことを論ずる。(右第七、八、九章) 9. 国に道があると無きとに関せず節操を持つべきを子略に示す。(右第十、十一章) 10. 孔子が憂いが無いのは文王だけだろうと語った理由を論ず。(右第十九章) 11. よく民を治めるには、誠は天の道なるを知るに有るを論ず。(右第二十章) 12. 孔子の思想が「人間中心」であり、「ヒューマニズム」であるといわれるのはなぜかを学ぶ。 13. 孟子の人間観と荀子の人間観は孔子を中心とした仁と礼のいずれかの強調からきたものである。 孟子・荀子はそれぞれを重視するものか、仁を重視するものかを考える。「四端の心」について学ぶ。 14. 老荘思想においては人間をどのようにとらえるか。又、儒教の人間観に対してどのような批判をしているかを学ぶ。 15. 老荘思想と儒教のどちらの人間観により自己の思想を築いていくのかを学ぶ。			
[履修に当たっての留意点] 予習・復習を行う。出席評価を重視する。			
[使用テキスト・参考文献] 「儒教哲学の研究-修正版」(明治書院) 「咸有一徳」(中央法規)		[単位認定の方法及び基準] 試験(70%) 課題取り組み(10%) 内容・方法・態度(20%)	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
日本国憲法		講義		森田 隆夫	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(2)	福祉保育学科2年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）					
[授業の目的・ねらい]					
日本国憲法は、日本の最高法規である。それは、この憲法が人権の体系であるからである。基本的人権は、すべての法領域に妥当する普遍的原理であり、社会福祉法、児童福祉法、介護保険法といった社会福祉に関する法律も、これを基礎としている。この憲法に触れ、人権の意味を知り、一般人としてはもとより、社会福祉の専門家としての基礎を作る。					
[授業全体の内容の概要]					
まずは、基本的な条文に当たりその理解をしてもらう。次に、判例をできる限り示し、憲法につき具体的に考える機会を持つ。適宜、関連する法律の紹介も行う。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
①六法で条文を調べることができる。					
②憲法につき重要な概念、制度等を説明することができる。					
③憲法解釈という思考方法をとることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 科目オリエンテーション、人権①(人権の概念、歴史について説明する。)[講義]					
2. 人権②(基本原理、私人間効力について説明する。)[講義]					
3. 人権③(包括的基本権、法の下での平等について説明する。)[講義]					
4. 人権④(思想良心の自由、信教の自由等について説明する。)[講義]					
5. 人権⑤(表現の自由等について説明する。)[講義]					
6. 人権⑥(経済的自由について説明する。)[講義]					
7. 人権⑦(人身の自由について説明する。)[講義]					
8. 人権⑧(生存権、教育を受ける権利について説明する。)[講義]					
9. 人権⑨(労働権、参政権、国務請求権、国民の義務について説明する。)[講義]					
10. 統治①(統治機構について説明する。)[講義]					
11. 統治②(国会について説明する。)[講義]					
12. 統治③(内閣について説明する。)[講義]					
13. 統治④(裁判所について説明する。)[講義]					
14. 統治⑤(財政、地方自治について説明する。)[講義]					
15. まとめと解説[講義]					
[履修に当たっての留意点]					
教科書で予習・復習すること、憲法の条文に目を通しておくことが絶対に必要です。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
【テキスト】			小テスト(40%)、定期試験(60%)を総合して評価する。		
・西原博史・斎藤一久 編著 教育課程のための憲法入門 弘文堂					
【参考文献】					
・小六法(例:「(保育)福祉小六法」みらい、「ポケット六法」有斐閣)					

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) キャリアデザイン		授業の種類 演習		授業担当者 鈴木 国泰	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 30 時間(1 単位)	配当学年・時期 福祉保育学科 1 年・前期		必修・選択 必修	
[実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性)] 現役学生の就職支援から、中高年職業訓練生の就職支援を平成 23 年度から担当してきました。突然就職希望先を決めてしまい、その結果突然早期離職してしまうケースや、なかなか就職希望先が決まらないケースも見てきました。それには、それなりの理由があります。つまり、就職には、いきあたりばったりではなく、ある程度のおおまかなデザインが必要なのです。デザインとは何か、キャリアとは何かを見直しながら、自分自身の進路への道筋を体得していきます。					
[授業の目的・ねらい] 「キャリアデザイン」の目的は、「キャリア」および「デザイン」を用語として理解を深めることで、将来的に自分自身の人生設計を自律的に可能にしていくことです。					
[授業全体の内容の概要] キャリアデザインをしていくためには、「やりたいこと」、「やれること」、「やるべきこと」の三要素を明確にしていくことが極めて重要です。そのためにも、個人ワーク・グループワーク等の手段を通じて、表現力・コミュニケーション能力を養いながら、自己理解を明確にしていきます。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] これからの学生生活では、様々なボランティア、インターンシップ・実習を通じて自らのキャリアの判断材料を作っていきます。何となく参加したボランティアが人生の大きな転換となることもあります。そのタイミングを逃さず捉えること、受け入れること、「これでいいのか?」と思うことなど、いくつもの劇的な場面に遭遇することでしょう。そのときに思った気持ちを大切に次のステップ(キャリア)に活かすことができれば、この授業の目標は到達されています。そして時には、意思決定のバリアも伴いますので、あらかじめ把握しておきましょう。また、専門家としてのゲストスピーカもお迎えし、総合的に別の観点からも自律したキャリアデザインを見据えていきます。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. キャリアって何?・パーティーゲーム「大運動会」でパーソナリティタイプを知ろう! キャリアの三要素 2. 今までの人生で影響を与えてきたこと、乗り越えてきたこと 3. 意思決定理論(クランボルツ「計画された偶発性」、ジェラットの積極的不確実性、) 4. マズローの欲求段階説・ローの理論、エゴグラム 5. ジョハリの4つの窓 6. キャリアの虹・スーパーのアーチモデル・カードソート(自分の大切なもの、職業観は何?) 7. メタ認知・ネガポジマップ 8. シャインのキャリア・サイクルモデルとキャリアアンカー(私の軸ってこれだ!) 9. レビンソンの発達段階とトランジション・ブリッジスのトランジション 3 段階理論 10. 意思決定のバリア(カーニーの意思決定スタイル、ディンクリッジの意思決定スタイル) 11. ブラック企業対策 (ゲストスピーカー: 群馬弁護士会) 12. 「知っておきたい公的年金」 (ゲストスピーカー: 日本年金機構前橋年金事務所) 13. 就活の流れ 14. 履歴書の書き方 15. 振り返り、まとめ					
[履修に当たっての留意点] 過去を振り返り、自分自身を見つめ直す為、グループワーク等を通じて、将来を考えていきます。他の人へ言いたくないことは言わずに自分の伝えられる範囲内の内容で、グループワークを実践しましょう。遠隔授業や感染拡大防止対策上、若干内容を変更して行うこともあります。					
[使用テキスト・参考文献] すべてこちらで用意します。			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度・課題・定期試験で総合的に評価します。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 情報リテラシー		授業の種類 演 習		授業担当者 市 川 貞 男
授業の回数 3 0 回	時間数(単位数) 6 0 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・通年		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 教員としての実務経験、教育委員会指導主事や研修会講師としての教育・保育現場への実務指導経験、教育現場での情報利活用を通して、現場の実情に即した実践的な知識やスキルの定着が図れるように各回の授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] パソコンに慣れ親しみ、身近な道具として利用する方法を身に付け、保育や福祉の現場に活かす能力を養う。				
[授業全体の内容の概要] コンピュータによる文書作成、表計算、プレゼン資料等の作成のための基本的な操作を、演習課題を通じて学び、Officeソフトの機能を体系的に理解する。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. マウスやキーボード操作に慣れ、基本的なOSやアプリケーションについて理解する。 2. ワードプロソフトのWordを使って、おたよりなどの文書を作ることができる。 3. 表計算ソフトのExcelを使って、表やグラフの作成とデータベース管理ができるようになる。 4. プレゼンテーションソフトのPowerPointを使って、分かりやすく説得力あるスライドを作ることができる。 5. ビジネスメールのスタイルや注意点を理解し、目的に応じたメール文を作ることができる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] この授業は、概略説明→操作練習→課題演習で構成される。 コマ数 1. ガイダンス 授業概要の説明と、PCやICTによる教育の情報化や情報モラルについて概説する。 2. パソコンの基礎 Windowsシステムを概説し、基本的な操作を練習する。 3. 基本操作の習得 メモ帳を使ってキーボードでの入力操作を練習する。【Unit1】 4. Windows ファイルやフォルダーの仕組みについて説明し、操作と検索の練習をする。【Unit2】 5. 文字入力 キーボードを使って文字入力の練習をする。【Unit3】 6. マウス操作 マウスを使ってイラストの描画練習をする。【Unit3】 7. Word① 文書作成の構成要素や機能を概説する。【Unit4】 8. Word② 簡単なおたよりを作成する。【Unit4】 9. Word③ Officeソフトの共通ツールを使って、表の作成や編集をする。【Unit5】 10. Word④ Officeソフトの共通ツールを使って、画像の挿入と加工や編集をする。【Unit5】				

11. Word⑤ イラストの入った案内カードを作る。【Unit6】
12. Word⑥ 表が入ったおたよりを作成する。【Unit6】
13. Word⑦ やや複雑なレイアウトのおたよりを作成する。【Unit6】
14. Excel① 表計算ソフトの機能や構成要素について概説する。
15. Excel② データ入力や編集操作をする。
16. Excel③ 計算式の入力、表の集計、シートの保存などの操作練習をする。
17. Excel④ 表を作成する。【Unit7】
18. Excel⑤ 計算式を使ってフォームを作成する。【Unit7】
19. Excel⑥ データベースを作成する。【Unit8】
20. Excel⑦ データベースの更新をする。【Unit8】
21. Excel⑧ データの検索と集計をする。【Unit8】
22. Excel⑨ 表データの様式を作成する。【Unit9】
23. Excel⑩ 表データの集計をする。【Unit9】
24. Excel⑪ 表データをグラフで表示する。【Unit9】
25. Excel⑫ 関数を使って管理簿を作成する。【Unit9】
26. PowerPoint① プレゼンテーションの流れ、PowerPointの機能や構成要素について概説する。
27. PowerPoint② スライドの作成や編集などの操作をする。
28. PowerPoint③ プレゼンファイルを作成する。【Unit10】
29. 保育の場でのEメールによるコミュニケーションについて考察して、メール文を作成する。【Unit11】
30. 総合演習課題の実施やまとめ。

〔履修に当たっての留意点〕

1. 教科書の該当箇所を読んで、予習しておく。
2. 授業中には、集中して演習課題に取り組み、スキルを向上させる。
3. 授業後の未達成の演習課題や、欠席時の演習課題はそのままにしないで、次回までにやり遂げて「提出フォルダ」にファイルで提出しておく。

〔使用テキスト・参考文献〕

『保育者のためのパソコン講座』 Windows10
 阿部正平・阿部和子・二宮祐子
 萌文書林

〔単位認定の方法及び基準〕

(試験やレポートの評価基準など)
 各回授業(授業の参加状況・演習時課題等)50%と
 総合演習課題50%で成績評価を行う。

授業概要

授業のタイトル(教科名) 英語リテラシー		授業の種類 演習	授業担当者 グジェビック マレク
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 通年	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園での実務経験はありませんが、大人だけでなく子供も対象として今まで英語を教えてきました。現在でも教えている生徒の中に日本人の小学校の児童や幼稚園の園児がいます。			
〔授業の目的・ねらい〕 外国人と日常の様々な状況で、意思を通わせる能力が必要となってきました。仕事、趣味、家族、友達に関して自分が質問をしたり、質問に答えること、さらに外国人に指示を与えたりその理由を説明したりしなくてはならない状況が生じます。保育士は、そのことを生徒に教える責任があります。 〔授業全体の内容の概要〕 基本的な文法、たくさんの会話の練習、発音やイントネーションの練習、さらに英語を母国語とする国の中でいくつかの国の生活や文化についての情報も学びます。 〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕 学生は基本的な日常生活の範囲内で英語の意思の疎通ができるようになり、さらにその英語での意思疎通の能力を他の人にも教えることができるようになります。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 1. Introductions (序論) (自己紹介、会話の練習、ロールプレイング、質問の練習) 2. Greetings (あいさつ) (会話の練習、発音の練習) 3. Meeting People (人々との会合) (話し合うこと、会話の練習、書く練習) 4. Showing Hospitality (もてなし) (申し出をすること、会話の練習) 5. Let's Do It! (それをしよう!) (提案や招待をする、会話の練習) 6. Interests and Hobbies (関心事と趣味) (会話の練習、書く練習) 7. Doing Shopping (買い物をする) (話し合いや会話の練習、買い物のリストを作る) 8. A Visit to the Zoo (動物園へ行ってみる) (現在進行形、ロールプレイング、書く練習) 9. Funny, Funnier, the Funniest (の比較級と最上級) (形容詞の変化、話し合ったり会話をする練習) 10. Telling the Time (時間を言う) (尋ねる練習、書く練習、会話の練習) 11. Time for Lunch (料理と食事について、会話の練習、自分の食べるものを決める) 12. You Can Do It! (能力について、自分や他の人について話すこと、会話) 13. How About a Swim With a Dolphin? (イルカと一緒に泳ぐのはどうですか?) (可能性について話す、ロールプレイング、会話) 14. Jobs and Professions (仕事と職業) (繰り返す活動、ロールプレイング、会話の練習) 15. More Interesting Than You Think (あなたが思うよりもっと面白い) (形容詞の変化、話し合い、書く練習) 16. My New Kitchen (私の新しいキッチン) (場所や家具の描写、モノローグ)			

17. Moving Around the Town (町の中を散歩する) (行き方を聞いたり教えたりする)
18. The Weather (天候) (天候の様子描写、絵を描く、会話)
19. Traveling to the Isle of Gold (金の小島へ旅行する) (田舎の場所、話し合い)
20. Going Abroad (外国へ行く) (見物、欲しいものを表現する、会話)
21. Countries and Nationalities (国と国籍) (話したり書いたりする練習、絵をかいてみる)
22. A Trip to Egypt (エジプトへの旅) (観光名所、会話の練習)
23. Family Problems (家族の問題) (命令、ロールプレイング、)
24. Just a Week Ago (ちょうど一週間前) (過去の経験、会話の練習、書く練習)
25. An Accident (事故) (過去の不規則動詞、書く練習と読む練習)
26. Natural Disasters (自然災害) (特別な助動詞、話し合い、ロールプレイング)
27. When a Big One Strikes (特別な助動詞、会話、書く練習)
28. Have You Ever Tried One? (今までにやったことがありますか?) (現在完了形、ロールプレイング)
29. How Long? Since When? (どのくらい長く? いつからずっと?) (現在完了進行形、会話の練習)
30. General Review of Verbs and Auxiliary Verbs Usage (動詞と助動詞の使い方の全体的な復習) (会話の練習)

〔履修に当たっての留意点〕

授業に出席し参加すること。授業の準備をすること。指示のあったように発音の練習をすること。

〔使用テキスト・参考文献〕

How Are You Doing? - A Short Course of English for Children and Adults; Marek Grzebyk, 2023 (子供と大人のための英語の短いレッスン)

テキストは自分で準備します。

〔単位認定の方法及び基準〕

試験(70%)と授業への参加(30%)

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 健康教育		授業の種類 講義	授業担当者 星野 邦彦
授業の回数 8	時間数(単位数) 15(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 高等学校、中学校での保健授業指導の実務経験をもとに、日々の生活の中で、生活習慣病を防ぐためにはどのような生活習慣を身につけるべきかを、具体的な例を挙げながら授業を展開していく。			
[授業の目的・ねらい] ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送るため、日常生活の健康施策を理解する。 ・身体運動をとおして、健康増進や発病予防の一次予防に関わることを理解する。 [授業全体の内容の概要] 人間にとって健康を考えることの意味、疾病やその対処法、心の健康と保持、社会と健康との関わり具体的な体力の把握と体力増進の方法、運動の持つ文化性、食と健康との関わりについて学ぶ。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・健康の概念・定義について理解するとともに、歴史的・社会的背景と流れを把握する。 ・生涯にわたる健康の保持増進のあり方について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. ライフスタイルと健康:健康を増進するためのライフスタイルを医療費や環境など社会的側面を含め総合的な視点で説明する。 2. 生活習慣病について:生活習慣病や三大死因などの原因や特徴、基礎的知識の獲得、それらと運動との関連について説明する。 3. 肥満について:肥満の原因となる体脂肪の役割や肥満の測定方法などを学び、改善策として代謝や運動食事との関連について説明する。 4. 骨と運動:骨の役割と構造を理解し、骨の強化や骨の発達に応じた運動について説明する。 5. 加齢について:サルコペニアが引き起こす身体問題や運動の重要性について説明する。 6. 子どもの体力と運動:現在の子どもを取り巻くスポーツ・運動の環境について説明する。 7. いろいろな環境下で安全に運動を行う:いろいろな環境下で安全に運動を行う際の留意点を理解し、パフォーマンスとの関連を説明する。 8. ストレスと運動:運動がストレスをはじめ、心や脳に与える影響、効果や働きかけについて説明する。			
[履修に当たっての留意点] 各回の授業において学習の手引きを活用し、単元の理解を深める。 各自の生活習慣を把握し、授業に取り組む。			
[使用テキスト・参考文献] これからの健康とスポーツの科学 第5版 安部孝・琉子友男 著 講談社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験70%出席状況30%により総合評価をおこなう。	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 体育実技		授業の種類 実技	授業担当者 星野 邦彦
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 高等学校、中学校、小学校での体育授業指導の実務経験をもとに、学生個々の運動能力を把握し、全員が楽しく運動に取り組めるよう工夫をしながら授業を展開していく。			
[授業の目的・ねらい] 健康で心豊かな生活を営むための生涯スポーツの一環として、学生生活の充実を図る。スポーツを通して、正しい方、競い方、技術の高め方などについて理解を深める。また、福祉保育にかかわる学生として障害者スポーツへの理解も深め、実践していく。 [授業全体の内容の概要] 生涯体育スポーツとして、参加者全員が楽しめるよう、各競技においてルール of 工夫やゲーム内容について互いに話し合いの場を設け、学生同士の自主性が育つよう授業を展開していく。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 健康で豊かな生活を送るためにスポーツを生活の中に取り入れ、スポーツ実践を通じて健康の保持・増進に努めるとともに、周囲の人々と協力してスポーツを楽しむ態度・習慣を身に付ける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 - オリエンテーション 授業方法 評価方法等についての説明 - 参加者全員が楽しめるためのルールの工夫 ソフトバレーボール - ソフトバレーボール チーム対抗戦 - 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バレーボール - バレーボール チーム対抗戦 - 苦手な者も積極的に参加できるルールの工夫 バスケットボール - バスケットボール チーム対抗戦 - 安全面の考慮・工夫 ドッジビー - ルールの工夫 ドッジビー チーム対抗戦 - 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 バドミントン - バドミントン ダブルス チーム対抗戦 - バドミントン ダブルス チーム対抗戦 - 全員が楽しめるためのゲーム運びの工夫 卓球 - 卓球 ダブルス チーム対抗戦 - まとめ			
[履修に当たっての留意点] 日々の体調管理をしっかりと行う。 運動に適した服装で授業に参加する。			
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料等配布		[単位認定の方法及び基準] 出席・活動状況70%、実技試験30%により総合評価をおこなう。	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育原理		授業の種類 講義	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭の現場経験から、幼児教育の基礎や専門的な知識の必要性を踏まえ、現代的視点を捉えながら授業を行う。			
[授業の目的・ねらい] 就学前の保育施設の多様化や現代社会の変化に伴う子どもや家庭の変化を理解し、保育を展開していくために保育者として守るべき大切な基礎・基本を理解する。 [授業全体の内容の概要] 保育全般について理解し、乳幼児の発達過程を理解する。また、年齢や発達段階に応じたの保育内容や保育の方法など専門職としての知識を深める。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育の目的、歴史、内容を理解し子どもの発達や生活や遊びについて理解し説明することができる。 ・保育の専門性としての役割を説明することができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.保育を学ぶこと、保育者に求められていることについて解説する。(第1章・演習1, 2)【講義】 2.子ども理解について説明する。(第2章・演習1～6)【講義】 3.西洋の保育の歴史と日本の保育について説明する。(第3章・演習1)【講義】 4.保育の理念を支える法規について解説し、子どもの権利条約等について説明する。(第4章・演習1)【講義】 5.幼稚園、保育園、認定こども園の制度と機能について解説する。(第5章・演習1～4)【講義】 6.少子化時代の子どもと現代の様々な保育の場について説明する。(第6章・演習1, 2, 3,)【講義】 7.保育の目標と保育の内容について解説する。(第7章・演習1～4)【講義】 8.環境を通して行う教育について解説する。(第8章・演習1)【講義】 9.子どもの発達と個別支援の必要な子どもについて説明する。(第9章・演習1)【講義】 10.保育計画と評価について説明する。(第10章・演習1, 2, 3)【講義】 11.幼・保・小連携について説明する。(第11章・演習1, 2,)【講義】 12.日本の保育の現状と課題について解説する。(第12章・演習1, 2, 3)【講義】 13.子育て支援の必要性や今後の課題について説明する。(第13章・演習1～4)【講義】 14.海外の保育と保育者のあり方について説明する。(第14章・演習1、第15章・演習1, 2, 3)【講義】 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] 保育に必要な用語や出来事や法令などについて興味関心を持ち、積極的に授業に参加し理解を深めていく。必要なことは、ノートに書き覚えていく。			
[使用テキスト・参考文献] 生活事例からはじめる 保育原理 青踏社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 受講態度出欠席遅刻等 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 教育原理		授業の種類 講 義	授業担当者 市 川 貞 男
授業の回数 1 5 回	時間数(単位数) 3 0 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 教員としての実務経験、教育委員会指導主事や研修会講師としての教育・保育現場への実務指導経験を活かして、教育・保育現場との有機的な関連性を感じさせるような授業を展開する。			
[授業の目的・ねらい] 保育者や教員を目指す者に必要な教育に関する理念、思想、制度や歴史について理解するとともに、教育や保育にかかわる今日的な課題について考えられるようにする。 [授業全体の内容の概要] 教育の基礎的な理論、思想、制度や歴史などを概観して、教育学の基礎的な知識と教育制度の基本的な仕組みや役割を学び、教育にかかわる今日的な課題や社会的制約環境について考察する。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] 1. 教育の本質や意義、教育制度の目的や内容について理解する。 2. 教育の歴史から、教育のあり方や子どもの捉え方など家庭や社会における教育について理解する。 3. 幼児教育や保育において重要な教育理論や思想について理解する。 4. 幼児期の教育をめぐる現在の動向について関心を持ち、教育を担う側の視点から考えることを身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] この授業はテキストに沿って講義を中心に進め、適宜、教育にかかわる今日的な課題について、学生と教員間、学生と学生間のディスカッションを取り入れる。 コマ数 1.【教育の本質・意義】 教育とは何か、教育の必要性や可能性、保育との関連について概説する。(講義「人物で学ぶ 教育原理」第1章) 2.【西洋の教育思想①】 コメニウス、ロック、ルソー、ペスタロッチの思想について概説する。(講義 同上 第2章) 3.【西洋の教育思想②】 フレーベル、デューイ、モンテッソーリの思想について概説する。(講義 同上 第2章) 4.【日本の教育思想①】 貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想について概説する。(講義 同上 第3章) 5.【日本の教育思想②】 森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想について概説する。(講義 同上 第3章) 6.【外国教育史】 古代ギリシャから近代ヨーロッパにおける教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第4章) 7.【日本教育史】 古代から昭和初期までの日本の教育思想や歴史を概説する。(講義 同上 第5章) 8.【教育制度と教育実践】 学校制度としての教育の仕組みと変革、その内容や方法について概説する。 (講義「人物で学ぶ 教育原理」第6章、「保育者・小学校教員のための教育制度論」第1章・第2章) 9.【学校教育に関する仕組み】 学校の基本的な仕組みについて概説する。(講義「保育者・小学校教員のための教育制度論」第3章・第6章) 10.【就学前の教育・保育に関する仕組み】 就学前の教育・保育、児童福祉に関する基本的な仕組みを概説する。(講義 同上 第4章・第5章・第15章) 11.【教育行政・学校経営の仕組み】 教育活動を支える教育行政・学校経営の仕組みや近年の改革動向について概説する。(講義 同上 第9章・第10章・第11章) 12.【教員に関する仕組み】 教員を支える教員制度について概説する。(講義 同上 第4章・第8章・第10章) 13.【特別支援教育の仕組み】 特殊教育から特別支援教育への転換や、体制整備について概説する。(講義 同上 第7章) 14.【問題行動への対応や安全に関する仕組み】 子どもの問題行動や事故について概説し、学校安全について考察する。(講義 同上 第6章・第12章・第14章) 15.【まとめ】 保育や教育の今日的な課題と改革の動向について概観し、これまでの学びを振り返ってまとめをする。 (講義 同上 第13章・第15章、他)			
[履修に当たっての留意点] 1. 各回の事前事後に、テキストの「学習の手引き」を活用すること。 2. 日ごろから教育に関する報道に関心を持って、情報収集に心がけること。			
[使用テキスト・参考文献] 「人物で学ぶ 教育原理」中村弘行 (三恵社) 【新訂版】「保育者・小学校教員のための教育制度論」 内山絵美子 他 編著 (教育開発研究所)		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験80%・授業の参加状況・提出物等20%で成績評価を行う。	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
子ども家庭福祉		講 義		橋本 祐	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15回	30(2)	福祉保育学科・1年・後期		必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい] 少子化や核家族化が社会的問題として取り上げられ、それに伴って家庭の養育機能の低下に注目が集まっている社会背景や、社会全体で子育て支援をしていく必要性を理解する。さらに、保育者の専門性としての子どもの権利擁護、及び最善の利益についての福祉観を身に付けていく。					
[授業全体の内容の概要] この授業の根幹となる児童家庭福祉の基本理念と法体系について学んでいく。さらに児童の権利条約に基づく子どもの人権を社会全体で擁護していく必要性を学び、保育者として必要な専門知識について解説していく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 本講義のオリエンテーションを行い、子ども家庭福祉の理念と概念について理解する。 2. 子ども家庭福祉の歴史的変遷を理解し、現代社会と子ども家庭福祉について学ぶ。 3. 子ども家庭福祉の構造とデータから現代の子どもについて理解する。 4. 子どもの権利擁護における歴史的変遷や条約、また子どもの権利を護る仕組みについて講義を行う。 5. 子ども観の変遷・児童の権利に関する条約と我が国の現状について講義を行う。 6. 児童福祉施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 7. 障害者総合支援に基づく施設の種別について概観し、実習に対する意識を高める。 8. 子ども家庭福祉の専門職や実施者について理解し、将来的に専門家として働く自身を意識できる。 9. 児童相談所の機能及び、要保護児童対策地域協議会について理解できる。 10. 少子化と子育て支援サービスや母子保健、また多様な保育ニーズへの対応について学ぶ。 11. 児童虐待、ドメスティックバイオレンスの防止・社会的養護について学ぶ。 12. 障害のある子どもや、非行、貧困・外国につながる子どもとその家族について学ぶ。 13. ひとり親家庭や、現代の子ども家庭福祉の課題と展望について講義を行う。 14. 子ども家庭福祉の歴史を概観する。 15. まとめと考察。					
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。					
[使用テキスト・参考文献] 吉田眞理(2018) 児童の福祉を支える子ども家庭福祉			[単位認定の方法及び基準] 授業態度30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
社会福祉		講義		伊藤 弘子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15回	30(2)	福祉保育学科2年 前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 精神保健福祉士として、医療・福祉の現場でソーシャルワーカーとして勤務してきた経験を活かし、社会福祉の基礎を実際の事例を示しながら講義していく。					
[授業の目的・ねらい]					
1. 社会福祉の基本的理念・原則を学ぶ。 2. 社会福祉の歴史的展開を踏まえて、現在の仕組みを理解する。 3. 社会福祉援助活動の方法を概観し社会福祉に関わる専門職としての保育士の位置づけを理解する					
[授業全体の内容の概要]					
社会福祉の歴史、理念、法体制、実態を学習し、時代の流れの中でどのような発展をしてきたかについて学ぶ。また、被援助者とそのニーズ、福祉行政の変遷、社会福祉の援助方法、専門職の課題、利用者保護等について学習する中で、保育分野との関連についても理解を深める。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
1. 社会福祉の意義、法体系、実施体系の概要が理解できるようになる。 2. 多職種間での連携と相互支援の重要性について理解できるようになる。 3. 地域で起こる様々な生活課題に対する相談援助技術や苦情解決の仕組みが把握できるようになる。 4. 児童の人権や家庭支援について、社会福祉及び児童福祉の視点から理解できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 社会福祉への理解:福祉的課題を身近なものと捉え、社会福祉の基本を理解できるよう概説を行う。【講義】 2. 社会福祉の歴史①(欧米):欧米における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 3. 社会福祉の歴史②(日本):日本における社会福祉の歴史について講義を行う。【講義】 4. 子どもと家庭と福祉①:妊娠から出産、養育にかかわる制度について解説を行う。【講義】 5. 子どもと家庭の福祉②:子どもの貧困、関連行政機関、子どもの権利について解説を行う。【講義】 6. 子どもと家庭の福祉③:児童福祉関連施設やサービス利用の仕組み、関連法についての解説を行う。【講義】 7. 社会福祉の専門職としての視点を養うため、動画教材等を用いた講義を行う。【講義】 8. 社会保障:医療保健・年金制度を中心に社会保険を解説する。【講義】 9. 障がい児・者福祉①:障がいの捉え方、障がい児・者福祉について講義を行う。【講義】 10. 障がい児・者福祉②:障がいの種類、関連法・制度についての解説を行う。【講義】 11. 地域福祉:地域福祉の概説、地域福祉を支える機関・団体について解説を行う。【講義】 12. ソーシャルワーク:保育士とソーシャルワークの関連性、技法・援助技術に関して解説を行う。【講義】 13. 低所得者の福祉:生活保護の基本的な考え方や種類について解説を行う。【講義】 14. 高齢者福祉:介護保険制度及び利用者保護について解説を行なう。【講義】 15. まとめと解説 科目全体の総括を行なう。					
[履修に当たっての留意点]					
テキスト内で提示される事例を事前に読み、授業の概要を理解してから授業に臨む。毎回、授業に関するシートの提出を課すので、必ず提出すること。授業で配布された資料は、大切に保管し、復習に活用すること。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
直島正樹・原田旬哉編著 『図解で学ぶ保育 社会福祉』 萌文書林、2017			確認テスト 10%・定期テスト 60%・受講態度 30%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援論		授業の種類 講義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭の経験や子育て時に行った小学校の評議員や学習ボランティアでの経験を活かし、子どもの発達とその保護者の抱える問題や地域社会との連携等について実際の子どもを取り巻く環境について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 多様性を増し変化し続ける現代社会の家庭の姿を理解し、家庭を支援する理論を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] 子育て家庭を取り巻く社会状況の変化や子育て家庭への支援体制について理解し、家庭支援の意義や保育者としての新聞報道や身近な事例と演習を交えながら具体的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・現代社会における家庭支援の必要性和その実際を理解し寄り添えるようになる。 ・子どもの保育に関する相談・援助・助言等に取り組むための手法を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.子ども家庭支援の意義と役割(家庭支援の意義と必要性について解説する。)演習問題1-1(講義) 2.子ども家庭の目的と意義(家庭支援の機能について解説する。)演習問題1-2、3(講義) 3.子どもの発達と親発達(人の人生について解説する。)(講義) 4.保育士の専門性を活かした子ども家庭支援と意義(ジェノグラム、エコマップ、社会資源について調べ説明をする。)演習問題3-1、2、3(講義) 5.子どもの育ちの喜びの共有(ロールプレイ、ディスカッションについて説明し実践する。)演習問題3-4、5、6(講義・グループワーク) 6.保護者及び地域が有する子育て(保護者の養育力向上について解説する。)演習問題3-7、8(講義) 7.保育士に求められる基本的態度(ロールプレイをする。)演習問題3-9、10、11、12、13(講義・グループワーク) 8.家庭の状況に応じた支援(相談対応と家庭機能と地域資源の活用を説明する。)演習3-14、15、16（講義） 9.子育て家庭の支援体制(保育士になったつもりで考えてみる。)演習問題4-1（講義） 10.子育て支援施策(ロールプレイをする。)演習問題4-2（講義・グループワーク） 11.次世代育成支援施策の推進(ワークライフバラ、男女共同参画を説明する。)演習問題4-3(講義) 12.多様な支援の展開と関係機関との連携(児童虐待やDV、保育所保育を解説する。)演習問題5-1(講義) 13.地域子育て家庭への支援(要保護児童への対応について説明する。)演習問題5-2(講義) 14.現状と課題(近隣会議を通じた支援について解説する。)講義 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 自分の考えをまとめ演習問題に取り組む。グループワークでの積極的な発言をしていくことを心掛け、他者の意見にも耳を傾ける。保育者になったことを想定して考えていく。					
[使用テキスト・参考文献] 児童の福祉を支える家庭支援論			[単位認定の方法及び基準] 定期試験80% 受講態度、出欠席遅刻、提出物等20%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 社会的養護Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 大山知恵子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（2）	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援教育に携わってきた、児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。			
〔授業の目的・ねらい〕 入所施設におけるケアの基礎を提供するだけでなく、「社会的養護」として、社会全般における児童養護の価値基礎を提供することを目指す。 〔授業全体の内容の概要〕 施設入所は閉ざされた場ではなくなり、家庭に近い機能を持つとともに、地域にその機能を開くことを求められ、福祉施設の機能が、社会全体、そして、地域や家庭にも必要とされるように、現在社会の中で子どもの権利をどのように護っていくべきかを習得する。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会的養護の原理を総体的に理解し、実践に役立たせることができる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1.科目オリエンテーション 社会的養護の理念と概念について解説する【講義】 2.社会的養護の歴史的変遷について解説する【講義】 3.社会や家庭の役割について理解させる【視聴・グループ討論】 4.社会的養護の基本原則Ⅰ 日常生活支援について解説する【講義】 5.社会的養護の基本原則Ⅱ 自己実現に向けた支援について解説する【講義】 6.社会的養護の基本原則Ⅲ 治療的支援について解説する【講義】 7.社会的養護の基本原則Ⅳ 自立支援について解説する【講義】 8.社会的養護の基本原則Ⅴ 生と性の倫理について理解させる【視聴・グループ討論】 9.社会的養護の制度と実施体系について解説する【講義】 10.乳児院と児童養護施設について解説する【グループ発表・講義】 11.障害児の入所施設について解説する【グループ発表・講義】 12.児童自立支援施設と児童心理治療施設について解説する【グループ発表・講義】 13.里親とファミリーホームでの養育について解説する【グループ発表・講義】 14.社会的養護の現状と課題について解説する【講義】 15.被措置児童等の虐待防止について解説する・まとめ【講義】			
〔履修に当たっての留意点〕 提示された課題は、次の授業までに調べる。疑問に思ったことは調べたり質問をしたりして、しっかりと理解する。			
〔使用テキスト・参考文献〕 『児童の福祉を支える 社会的養護Ⅰ』萌文書林 編著者 吉田眞理 著者 高橋一弘 村田紋子		〔単位認定の方法および基準〕 試験50%・提出物50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育者論		授業の種類 講義		授業担当者 清水 美弥子	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園、保育園、育児コンシェルジュでの勤務経験を基に、実際の保育現場で求められる保育者の専門性について知り、保育職への意識を高め、自身の保育観を形成出来る様導いていく。					
[授業の目的・ねらい] ・保育者の役割や求められている専門性について学び、保育者としての同僚、保護者、地域、関係機関等との連携・協働や資質向上とキャリア形成に努める力を養う。 [授業全体の内容の概要] ・保育の現場における子ども・保護者・同僚・地域・関係機関等とのかかわりの場面から保育者の仕事とはどのようなものなのか考察し、保育者の専門性について理解を深める。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 保育者の役割と倫理についての理解 2. 保育士の制度的な位置づけの理解 3. 保育士の専門性についての考察と理解 4. 保育者の連携・協働についての理解 5. 保育者の資質向上とキャリア形成への理解					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育者とは…保育者の役割＜講義→ワーク＞(第1章) 2. 保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭・施設保育士)の1日の流れ及び 3. 保育者に求められる倫理＜講義→ワーク＞(第2.3.4.5章) 4. 保育者の制度的位置づけ＜講義→ワーク＞(第6章) 5. 保育者の専門性①保育者の資質・能力＜講義→ワーク＞(第7章) 6. 調べ学習を保育に活かす①＜講義→ワーク＞ 7. 〃 ②＜ワーク仕上げ＞ 8. 〃 ③＜発表→解説＞ 9. 保育士の専門性②養護および教育の一体的展開 ＜講義→ワーク＞(第8章) 10. 〃 ③保育の質の向上 ＜講義→ワーク＞(第9章) 11. 〃 ④計画に基づく保育の実践と省察・評価 ＜講義→ワーク＞(第10章) 12. 保育者の連携・協働①園内の保育者チームおよび家庭との連携 〃 ②専門機関や地域との連携 ＜講義→ワーク＞(第11.12章) 13. 保育者としての葛藤＜講義→ワーク＞(第13章) 14. 保育の現代的な問題＜講義→ワーク＞(第14章) 15. 総まとめ ＜保育者を目指す者として…自身の課題の明確化＞＜講義→まとめワーク＞(第15章)					
[履修に当たっての留意点] 子どもを取り巻く環境や保育に関する社会の動きに関心を持ち、自ら調べたり、考えたりする。					
[使用テキスト・参考文献] 『保育者論－主体性のある保育者を目指して－』 野津直樹・宮川萬寿美 編著 萌文書林			[単位認定の方法及び基準](試験やレポートの評価基準など) 授業態度40%、課題への取り組み60%を目安とし、 総合的に評価する。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 児童福祉特殊		授業の種類 講 義		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期		必修・選択 選 択	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 保育の新制度に伴い幼児の発達性の観点から、幼小の接続と同時に乳幼児からの発達の道筋を理解し、適切な指導助言について学修する。 [授業全体の内容の概要] 教育・保育をすすめるうえでの「保育者」の役割と専門性の理解、および実際の教育・保育方法を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育方法の基本的な考えを理解し、現状を正しく把握し、それに沿った指導や援助ができる。 ・保育者として、子どもたちの感性や興味関心に反応し、保育を創造する保育方法などを学び実践できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.保育方法とは何かについて説明する。(講義) 2.子ども理解からはじまる保育方法について説明する。(講義) 3.環境を生かした保育方法を概説する。(講義、グループワーク) 4.遊びを通しての総合的な指導方法を説明する。(講義、グループワーク) 5.個と集団を生かした保育方法について説明する。(講義) 6.子どもにふさわしい園生活と保育形態について説明する。(講義) 7.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 8.3・4・5歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 9.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 10.0・1・2歳児の発達の時期に応じた保育方法について説明する。(講義) 11.保育の計画・実践・評価について説明する。(講義、指導案作成) 12.家庭・地域との連携を生かした保育について説明する。(講義) 13.小学校との交流活動のデザインについて説明する。(講義) 14.配慮を要する子どもへの保育方法について説明する。(講義) 15.まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。					
[使用テキスト・参考文献] 最新保育講座6 保育方法・指導法			[単位認定の方法及び基準] 受講態度出欠席遅刻等 20% 定期試験 80%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
保育の心理学		講 義		橋本 祐	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15回	30時間(2)	福祉保育学科・1年・前期		必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。					
[授業の目的・ねらい]					
1. 保育に必要とされる心理学的知識を学び、子どもの行動に対する理解を深める。 2. 保育現場において生じる問題や課題に対する理解を深め、適切な対応を学ぶ。					
[授業全体の内容の概要]					
保育現場における様々な状況を想定し、子どもと発達と心理的側面から考察を行う。また事例を通じて子どもや保護者に対する支援のあり方について学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 心理学における学問的意義や今後の学習に対するオリエンテーションを行う。 2. 発達の原則やその要因について解説する。 3. 子ども観の変遷と、発達の理論について講義を行う。 4. 情動の発達や、愛着の問題、アイデンティティや非認知能力について講義を行う。 5. 身体機能、運動機能の発達について解説する。 6. 認知発達とピアジェの理論について学ぶ。 7. 言語発達と非言語能力、ヴィゴツキーの理論について講義を行う。 8. 心理査定の意味や、心理検査と知能検査、それを用いた支援について解説する。 9. 0歳から5歳にかけての発達について解説する。 10. 学童期から老年期にかけて解説する。 11. 学習理論や条件付けについて学ぶ。 12. パーソナリティについて、古典的な類型論と特性論について学ぶ。 13. 遊びの過程と意味とソーシャルスキルトレーニングについて講義と演習を行う。 14. 心理学史における、各理論の位置付けについて解説を行う。 15. まとめと解説。					
[履修に当たっての留意点]					
遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
大浦賢治(編)(2020) 実践につながる新しい保育の心理学			授業態度 30% 試験 70%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 講 義	授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・後期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして、また心理判定員としても長く臨床業務を行ってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもたちだけでなく、子どもたちがそこで生まれ人格形成をする場である家族の役割や機能を理解し、実際に保育園等で出会う子どもと家庭の出来事に対応するための知識基盤と感性を育成することを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 教科書に基づき、基本的な知識を学習する。そして事例や演習課題を通して、保育者としての福祉観や、対応の方法を考えていく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] - 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 - 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその過程を包括的にとらえる視点を取得する。 - 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 - 子どもの精神保健とその課題について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.授業のオリエンテーション。幼児期から学童期にかけての発達の特徴を確認する。 2.学童期の発達とその特徴および思春期の始まりについて振り返り、親子関係について理解する。 3.思春期・青年期の親子関係・仲間関係と道徳性について学び、親子関係が問われる問題について考える。 4.心理社会的モラトリウムとアイデンティティ形成について自分を振り返りながら学ぶ。 5.成人期から高齢期の発達の特徴について、親世代の抱える課題を通して理解していく。 6.老年期の課題と家族について理解を深める。 7.家族システムと家族発達について、家族をシステムとしてみる視点について学び、家族療法を理解する。 8.家族の発達について、構成員の年齢とともに機能が変化していくことを学ぶ。 9.親としての養育スタイルの形成過程と世代間伝達について、不適切な養育や愛着の問題などとともに学習する。 10.愛着の重要性を、発達障害とパーソナリティ障害の問題とともに解説する。 11.子育て環境の社会状況変化とワークライフバランスについて、アロマザリングの考え方とともに学ぶ。 12.多様な子育て家庭への支援について、子育て支援の重要性について考える。 13.特別な配慮を必要とする家庭への配慮について、貧困や、虐待、精神疾患等の視点から考える。 14.基本的生活習慣と幼児期・学童期にみられる精神障害について、具体的な事例をもとに学ぶ。 15.災害と子どもについて、PTSDや災害時の子どもの適応行動や遊びについて理解する。			
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。			
[使用テキスト・参考文献] 本郷一夫・神谷哲司(編著、2019)「子ども家庭支援の心理学」		[単位認定の方法及び基準] 授業参加態度 20% エッセイ 20% 定期テスト 60%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
子どもの理解と援助		演習		赤石 花子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科2年・後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を基に、子どもの発達段階や生活背景を理解するための視点や、求められる援助と方法について、具体例を挙げながら解説をする。子ども理解のための基礎知識と、援助のための根拠や方法が習得できるような授業展開をする。					
[授業の目的・ねらい] ・基本となる理論、概要を理解し、事例と照らし合わせて考察することで内容の理解を深める。 ・さまざまな事例に触れ、子どもやその家族についての理解を深める力と、援助するために有効な手立てについて学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] ・子ども理解と援助には保護者との連携が特に重要であることから、保育における記録や情報公開の方法についての知識と技術を習得する。また、ドキュメンテーションを効果的に活かすための基礎を押さえる。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ① 保育者として子どもの成長発達にかかわることに対する倫理観が身につく。 ② 異なる環境や発達段階にある子どもとその家族への援助の在り方について、言語化できるようになる ③ 実践の科目として活用できるような思考、判断力、コミュニケーションスキルを身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.オリエンテーション・授業概要説明、子供理解の視点【講義→演習】 2.子ども理解の方法①・発達や個人差など、子どもの多様性を理解する【講義→ワーク】 3.子ども理解の方法②・保育指針や教育要領にみる、子ども理解と援助の基礎的理論【講義→演習】 4.子どもの育ちの様子①・保育者と子ども、同年齢の子ども、異年齢の子ども同士の関係【講義→演習】 5.子どもの育ちの様子②・個から集団のかかわりの中での育ちの過程を捉える。【講義→演習】 6.子どもの育ちの様子③・子どもの意思表示と葛藤、つまづきを捉え、保育者としての援助を考える。【講義→演習】 7.環境の理解と構成①・保育環境を構成する保育者の視点【講義→演習】 8.環境の理解と構成②・家庭や社会的環境など、子どもを取り巻く環境への配慮と援助【講義→演習】 9.理解に基づく発達援助①・発達を援助する保育者の役割を明確にする。【講義→演習】 10.理解に基づく発達援助②・適切な援助をするために重要となる個別計画と評価【講義→演習】 11.特別な配慮を必要とする子どもの理解と援助・インクルーシブ保育、子どもの発達支援の多様性【講義→演習】 12.就学への支援・発達と学びの連続性を見据えた就学支援の本質とは【講義→演習】 13.子ども理解のためのドキュメンテーション①・記録と情報共有がもたらす子ども理解への効果【講義→演習】 14.子ども理解のためのドキュメンテーション②・子ども理解を共有する園と保護者、地域にとっての効果【講義→演習】 15.まとめ・子ども理解と援助について振り返り、保育の質の向上について考える【講義→演習】					
[履修に当たっての留意点] 演習では自分の考えを積極的に発信し、授業での学習と、実習での経験がリンクする学びとなるようにすること。					
[使用テキスト・参考文献] 『子どもの理解と援助ー子ども理解の理論及び方法 ドキュメンテーション(記録)を活用した保育』 入江礼子、小原敏郎 萌文書林			[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・姿勢) 30% 課題への取り組み 30% 提出物・科目試験 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの保健		授業の種類 講義	授業担当者 政久 かな子
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・1年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 看護師として臨床経験(病院勤務)あり。その経験を生かして、子どもの健康的な成長発達の特徴を学び、健康上の問題を把握、解決に導けるよう講義していく。			
[授業の目的・ねらい] 特に発育・発達の目覚ましい乳幼児期の特性を学び、出会うことの多い疾患や事故の予防などの知識について理解する。保健的観点から、保育における環境及び衛生管理・安全管理とその実施体制について理解する。 [授業全体の内容の概要] 子どもの保健は、子どもたちのこころと身体を健康を維持・増進することを目的とした医学分野である。子どもの成長・発達過程の特徴を把握し、現代社会における子どもの健康に関する現状の理解と課題について学んでいく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。 ・子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 ・子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 ・子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 子どもの心身の健康と保健の意義について概説する。(講義) 2. 生命保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的について説明する。(講義) 3. 健康の概念と健康指標について説明する。(講義) 4. 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について解説する。(講義) 5. 地域における保健活動と子ども虐待防止について説明する。(講義) 6. 身体発育及び運動機能の発達と保健について説明する。(講義) 7. 生理機能の発達と保健について説明する。(講義) 8. 発達に即応した基本的生活習慣の形成について解説する。(講義) 9. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について説明する。(講義) 10. 健康状態の観察、心身の不調等の早期発見の重要性について解説する。(講義) 11. 発育・発達の把握と健康診断について説明する。(講義) 12. 保護者との情報共有の必要性について説明する。(講義) 13. 主な疾病の特徴と予防及び適切な対応について説明する。(1) (講義) 14. 主な疾病の特徴と予防及び適切な対応について説明する。(2) (講義) 15. まとめ			
[履修に当たっての留意点] 筆記用具は必ず持ってくる。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
『子どもの保健』 中根淳子他編著 ななみ書房		筆記試験 100%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っていることから、実際目にした食をめぐる諸問題を、講義の中で事例的に紹介している。栄養を摂取するだけの食ではなく、子どもをめぐる広い意味での食生活を考えたい。			
[授業の目的・ねらい] 食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。 [授業全体の内容の概要] 子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。 * 本科目は調理実習が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、授業内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。また暑い時期には、実習を控える可能性があります。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立作成ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. オリエンテーション 講義の進め方、課題、評価方法について説明する(講義)。 2. 子どもの健康と食生活の意義について解説する(講義)。自身の食生活をチェックする(演習)。 3. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能①(講義)。学生による課題発表。 4. 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能②(講義)。学生による課題発表。 5. 食事摂取基準と献立作成・調理の基本。調理実習についての事前説明(講義)。学生課題発表。 6. 調理室になれるための簡単な調理と試食(実習)。 7. 乳児期の授乳・離乳の意義と食生活について解説する(講義)。学生による課題発表 8. 卵料理、茹で野菜、洋風スープ。調理と試食(実習)。 9. 幼児期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。学生による課題発表 10. 幼児期の間食の調理と試食(実習)。 11. 学童期の心身の発達と食生活について解説する(講義)。学生による課題発表。 12. 学童期の間食の調理と試食(実習)。 13. 生涯発達と食生活について解説する(講義)。学生による課題発表。 14. 妊娠期の貧血に勧めたい調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。筆記試験。			
[履修に当たっての留意点] ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。			
[使用テキスト・参考文献] 「発育期の子どもの食と栄養」 菅原 園 他、学建書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 子どもの食と栄養		授業の種類 演習	授業担当者 平石 仁恵
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年 後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 主に高校生以下の子どもをもつ家庭の支援を行っていることから、実際目にした食をめぐる諸問題を、講義の中で事例的に紹介している。栄養を摂取するだけの食ではなく、子どもをめぐる広い意味での食生活を考えたい。			
[授業の目的・ねらい] 食事は単なる栄養源ではなく、おいしく食べ、心を育むものである。本科目は、食生活の意義や栄養に関する知識と技術の習得を目的とする。また、演習や発表を通じて食に関する情報共有を図る。 [授業全体の内容の概要] 子どもの成長の源である食べ物の摂取と栄養についての講義、現場で役立つ実習、口頭発表などを通じて実践力を培う。 * 本科目は調理実習が予定されていますが、新型コロナウイルス感染症の状況により、授業内容や実習時期、実習内容を変更する可能性があります。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・栄養素、食文化、食物アレルギー、食育について、それらの内容と重要性が理解できる。 ・目的に合った調理、衛生行動、献立や食育便りの作成ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1. 保育における食育の基本的考え方と評価方法、後期の課題発表について説明する(講義)。 2. 食育のための環境について解説する(講義)。食育便りの作成①(演習)。学生課題発表。 3. 食育便りの作成②(演習)。学生による課題発表。 4. 地域の関係機関、職員間の連携について解説する(講義)。保護者支援グループワーク(演習)。 5. 食育の現状と今後の課題、家庭における食事と課題、実習レシピ解説(講義)。学生課題発表。 6. 食育活動とつながるおやつの調理と試食(実習)。 7. 児童福祉施設における食事と栄養について解説する。実習レシピ解説(講義)。学生課題発表。 8. 給食に適した調理と試食(実習)。 9. 疾病および体調不良のある子ども、障害のある子どもへの対応(講義)。学生課題発表。 10. 病児に向けた調理と試食(実習)。 11. 食物アレルギーについて解説する。実習レシピの解説(講義)。視聴覚教材。学生課題発表。 12. アレルギー対応食の調理と試食(実習)。 13. 緊急時・災害時への対応。実習レシピの解説(講義)。学生課題発表。 14. 非常時の調理と試食(実習)。 15. まとめと解説。筆記試験。			
[履修に当たっての留意点] ・調理実習時にはガイダンスに従い、身支度を整えること。 ・実習の手順書を事前に読んで実習に臨むこと。実習後に、自宅で再度調理することを勧める。			
[使用テキスト・参考文献] 「発育期の子どもの食と栄養」菅原 園 他、学建書院		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 50% 課題発表・実習態度 50%	

授業概要

授業のタイトル（教科名） 障害者福祉Ⅰ		授業の種類 講 義	授業担当者 豊田 和泉
授業の回数 15 回	時間数（単位数） 30（2）	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1 年・前期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援学校では「健康の保持・心理的安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーション」の6つを基本的に指導計画を作成しこれを実施していた。授業では、6 つの基本をしっかりと説明し、学生が障害のある児童、生徒の気持ちに寄り添い、生活年齢も尊重しながら成長のタイミングを見逃さないことが大切であることを理解してもらえるように、具体例を挙げながらより理解が深められるように進めていく。			
[授業の目的・ねらい] ・保育の専門職として、障害の概念や障害福祉の基本知識について学ぶ。 ・障害のある方と向き合うために必要な知識を身につける。 [授業全体の内容の概要] ・障害についての基本的な知識を身につけ、日常生活への影響を与える機会にする。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] ・障害特性の知識を身につけ、実習やボランティアの中で支援を工夫する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 授業の内容、進め方について説明する。「障害」ってなんだろう。 2. 身体障害の視覚障害、聴覚障害について説明する。グループワークで困りごとを考える。 3. 身体障害の肢体不自由について説明する。身体障害についてまとめて振り返る。身体障害者手帳について説明する。 4. 重複障害について説明する。合わせて医療ケア児について説明する。 5. 知的障害について説明する。療育手帳制度について説明する。 6. 精神障害について説明する。発達障害について説明する。精神障害者保健福祉手帳について説明する。 7. 高次脳機能障害について説明する。 8. 難病について説明する。 9. 障害のある方から話を聞く。 10. 障害者支援法の概要と基本的な考え方について説明する。 11. 権利擁護、虐待防止について説明する。 12. 地域生活支援について説明する。 13. 連携と協働について説明する。 14. 障害者福祉の今後の課題について説明する。 15. 総合まとめ・解説			
[履修に当たっての留意点] 学生には、授業成果の達成感を高めるために、授業以外の自主学習（予習・復習）を授業 1 コマにつき、各回数時間程度促していく。			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座 14 障害の理解 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] ・試験やレポート評価の基準 試験（6）、授業態度（2）、豆テスト（2）	

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害者福祉論Ⅱ		授業の種類 講義	授業担当者 橋本 祐
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 学校現場においてはスクールカウンセラーとして特別支援教育にかかわり、また心理判定員として療育手帳の判定業務に携わってきた。授業では、保育園や幼稚園に巡回相談をしていた経験も踏まえ講義を行う。			
[授業の目的・ねらい] 障害者福祉の現状や課題を学ぶことにより、今後の障害者福祉のあり方について自分なりの考えを持つことが出来る。 [授業全体の内容の概要] それぞれの障害における特性について理解を深め、サービスの特徴を押さえながら、自立と参加を支えるための課題を考察する。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①医学的、心理学的、社会的な側面から、各障害の主な特徴を説明できる。 ②障害者の生活を「当事者」の立場から理解することの必要性和困難さについて、説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] - 講義：オリエンテーション 障害の基礎的理解 - 講義：障害のある人の生活の理解 視覚障害と聴覚障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 重複障害と肢体不自由を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 知的障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 精神障害を中心とした講義 1 - 講義：障害のある人の生活の理解 精神障害を中心とした講義 2 - 講義：障害のある人の生活の理解 高次脳機能障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 発達障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 強度行動障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 重症心身障害を中心とした講義 - 講義：障害のある人の生活の理解 難病を中心とした講義 - 講義：障害のある人に対する支援 意思決定支援、アセスメント、社会資源に関する講義 - 講義：家族への支援 - 講義：連携と協同 - まとめと解説			
[履修に当たっての留意点] 遅刻や、授業中のスマートフォンの操作、提出物の未提出は、望ましくない授業態度として減点します。			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座13（第4版） 「障害の理解」		[単位認定の方法及び基準] 試験 60% 授業参加 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
保育の計画と評価		講義		赤石 花子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(2)	福祉保育学科2年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、保育の計画と評価の内容を、実際の保育活動と照らし合わせながら解説をし、保育計画の必要性を理解する。					
[授業の目的・ねらい] ・保育計画は、子どもの発達過程を踏まえて、保育内容が組織的、計画的に構成されている事がとても重要であることを理解する。 ・活動が主体的に行われるために、保育者に必要な配慮事項を盛り込んだ計画の作成になるよう、基礎的な知識を身に付ける。					
[授業全体の内容の概要] ・実際の現場で行事や園庭遊びを想定し、より具体的な指導計画の作成方法を体験する。計画、実施 評価・改善(PDCA)の繰り返しにより、活動が連続性をもった取り組みになることを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ① 活動の目的を明確にするための計画の作成ができるようになることを目指す。 ② 指導計画作成にあたり、幼児が主体となる活動にするための要となるポイントを理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数 1.オリエンテーション ・授業概要説明、教育・保育の計画と評価の基本【講義→ワーク】 2.教育・保育の計画 ・幼稚園・保育所・認定こども園における日案(デイリープログラム)【講義→ワーク】 3.保育計画・準備① ・行事への参加を想定し、計画を練る。出し物の準備・練習。【講義→グループ演習】 4.保育計画の実施① ・行事への参加計画の実施・振り返り・評価改善【講義→グループ演習】 5.保育計画・準備②③ ・園庭遊びへの参加を想定し、計画を練る。【講義→グループ演習】 6.保育計画の実施②・園庭遊び参加計画の実施・振り返り・評価改善【講義→グループ演習】 7.保育計画の実施③・園庭遊び参加計画の実施・振り返り・評価改善【講義→グループ演習】 8.教育課程および年間指導計画の編成・編成の手順と実践のとらえ方【講義→ワーク】 9.保育計画・準備④⑤ ・行事への参加を想定し、計画を練る。【講義→グループ演習】 10.保育計画の実施④・行事への参加計画の実施・振り返り・評価改善【講義→グループ演習】 11.保育計画の実施⑤・行事への参加計画の実施・振り返り・評価改善【講義→グループ演習】 12.長期的・短期的な計画の編成(月案・日案・個別配慮計画)【講義→ワーク】 13.指導計画案(日案)の作成と実践【講義→ワーク】 14.保育の質の向上 ・教育・保育の見直しと改善の重要性について【講義→グループ演習】 15.まとめ ・作成した計画と、実際の保育への参加の全過程を振り返り、保育計画の本質についてまとめをする【演習】					
[履修に当たっての留意点] 実際の保育に参加する際には、動きやすく汚れてもよい服装で臨むこと。 行事と園庭遊びへの参加は、受け入れ側の都合により変更の可能性があるため、それに伴う授業内容の変更もある。					
[使用テキスト・参考文献] 『保育の計画と評価－豊富な例で1からわかる』 宮川 萬寿美編著 野津直樹 内山絵美子他 萌文書林 『保育所保育指針解説』厚生労働省 フレーベル館 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育保育要領』 内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館			[単位認定の方法及び基準] 授業・保育参加への意欲・態度 30% 課題への取り組み 30% 提出物・科目試験 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 保育内容総論		授業の種類 講 義		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 1 5	時間数(単位数) 3 0 （1）	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。					
[授業の目的・ねらい] 保育原理や幼児理解を基礎に置き、子どもの姿からどのように保育を構成していくかを学ぶ。 幼児教育の基本である環境を通して行う教育について理解し、実践につなげられるようにする。					
[授業全体の内容の概要] 幼児教育の基本、幼児理解、保育方法、保育内容、組み立て方などについて総合的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] ・環境を通して行うこと教育とは何かについて理解する。 ・子どもにとって遊びは学びであるということを理解する。 ・保育の中で幼児理解や環境構成について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 「保育」とは何かについて解説する。 2. 幼児教育の基本①5領域について解説する。（講義、ディスカッション） 3. 幼児教育の基本②「環境を通して行う教育」について解説する。（講義・ワーク） 4. 保育内容の変遷について解説する。（講義・ワーク） 5. 子どもの生活場面と保育内容について解説する。（講義・ワーク） 6. 年齢に応じた保育について解説する。（講義・ディスカッション） 7. 子どもにとって遊びとは①事例を通して解説する。（講義・ディスカッション） 8. 子どもにとって遊びとは②非認知能力について解説する。（講義） 9. 協同的な学びについて解説する。（講義、ディスカッション） 10. 保育現場における行事について解説する。（講義・ディスカッション） 11. 保育における計画の重要性について解説する。（講義・ディスカッション） 12. 保育に求められる多様性について解説する。（講義・ディスカッション） 13. 保育における記録の意義について解説する。（講義・ディスカッション） 14. 保育者の専門性とは、質の高い保育とは何かについて解説する。（ディスカッション） 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] なるべく一人ひとりの発言機会を多く設けたい。自分の言葉で保育のことを語り合える場にしたい。					
[使用テキスト・参考文献] 生活事例から始める-保育内容-総論 青踏社 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			[単位認定の方法及び基準] 定期試験50％ 授業態度30％ 提出物20％		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 健 康		授業の種類 演 習		授業担当者 佐藤 由樹路	
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。					
[授業の目的・ねらい] 心身体の健康に関する領域「健康」の狙いと内容を理解し、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養う」ために具体的な指導のあり方を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] 乳幼児期の健康に関して、現代社会の子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの発達段階や具体的な指導方法について習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・領域「健康」についてのねらいと内容を理解し、乳幼児期の心身体の発達について理解し説明できる。 ・0歳から就学前の乳幼児の遊びを中心とした保育実践を習得し子どもと遊ぶことができる。 ・食育、安全・衛生指導、安全管理のあり方が分かる。また、保護者への連携と健康指導を学び実践に結びつけ行うことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育について解説し、幼児教育の目的と領域について説明する。(講義) 2.環境を通しての教育と幼児教育の基本について解説する。(講義) 3.保育者の役割と領域「環境」と他の領域との関係について説明する。(講義) 4.運動能力の発達と情緒の安定について解説する。(講義) 5.生活習慣の形成と子どもの発達と事故について解説する。(講義) 6.最近の子どもたちと心身の変化について解説する。(講義) 7.運動能力低下の原因と集団保育の役割を解説する。(講義) 8.乳児・1～2歳児の遊びとルールのある遊び、遊具を使った遊びについて解説する。(講義) 9.様々な遊びと環境構成について解説する。(講義) 10.園児交流(実技) 11.園生活と生活習慣(食と睡眠)について解説する。(講義) 12.当番活動や保育者の役割と家庭との連携について解説する。(講義) 13.安全教育について解説する。(講義) 14.現代社会における今日的な課題について解説する。(講義) 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 授業に積極的に参加し、子どもの成長と保育者の役割を保育者になった気持ちで考えていく。また、実践につなげるように「自分だったら」を想定して考え授業を受ける。					
[使用テキスト・参考文献] ＊新訂＊ 事例で学ぶ保育内容 領域 健康			[単位認定の方法及び基準] 定期試験 80% 授業態度、出欠席遅刻等 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類	授業担当者
人間関係		演習	赤石 花子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期	必修・選択
15	30(1)	福祉保育学科1年・後期	必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を基に、実例を取り入れ、学びの内容を具体的なものとして解説をする。保育者はもちろん、家庭や地域、関係機関が一体となって連携を図ることで、子どもの育ちに対し有効なアプローチができることを学び、理解する。			
[授業の目的・ねらい] ・乳幼児期の環境が、人の育ちに深くかかわることを理解し、生活や遊びの中で深く絡み合っている人間関係の内容について、具体例を挙げながら紐解いていく。 [授業全体の内容の概要] ・実際の事例を挙げ、場面を想定して考察していく。乳幼児の月齢、発達段階による個人差があることもふまえ、目の前にいる子どもに必要な経験は何か、保育者はどんな援助ができるのか、方向性を探っていく。 ・ワーク演習の活用と、グループワークを重ねることで学びの中身を振り返り、理解を高める。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ① 基礎的な知識をもち、乳幼児の生活や遊びの中で経験するにふさわしいかわりとは何か、イメージを膨らませて考えることができる。 ② 子どもをとりまく環境においては保育者のみならず、その他家庭や地域、社会的背景が大きな影響をもたらすことを理解し、学びを実践活動で活かすことができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.オリエンテーション 授業概要説明、領域(人間関係)における、その背景と保育者の役割【解説→ワーク】 2.領域の内容理解① 各指導要領の内容『人間関係』について読み解く。【解説→グループワーク】 3.領域の内容理解② 具体例を用いて年齢に合わせた発達をとらえ、理解する【解説→ワーク】 4.遊びと学びの見守り 社会性が身に付く年齢別の育ちを理解する。【解説→ワーク】 5.保護者と保育者 子どもの育ちを共に見守る保育者と保護者の関係性について学ぶ【解説→ワーク】 6.保育者と子どものやりとり① 事例を挙げ、実際に保育者が援助する方法を学ぶ。【解説→グループワーク】 7.保育者と子どものやりとり② 事例を挙げ、実際に保育者が援助する方法を学ぶ。【解説→グループワーク】 8.望ましい態度と習慣の育成① 遊びの中で経験することが望ましいかわりについて考える。【解説→ワーク】 9.望ましい態度と習慣の育成② 経験が学びへと発展する体験をする。【解説→グループワーク】 10.保育者自身の人間関係 子どものモデルとしての大人とは。【グループワーク】 11.地域との連携 子どもの育ちに大きく影響する地域社会の役割について考える。【解説→グループワーク】 12.就学への接続 これまでの育ちを振り返り、これから必要な配慮や援助について考察する【解説→ワーク】 13.指導計画と実践 子どもを理解した上で必要な指導の計画をし、保育の質の向上を目指す。【解説→ワーク】 14.保育者と環境 保育者自身の人間関係と、保育者間の意思疎通や協力について考える。【解説→グループワーク】 15.まとめ 学びを振り返り、子どもの遊びと学び、保育の継続性について考察する。【解説→グループワーク】			
[履修に当たっての留意点] ① グループワークでは机上を離れた活動も想定されるため、動きやすい服装で臨むこと。 ② 実際に子どもと関わり、援助方法を学ぶ機会があるが、受け入れ側の都合により、変更の可能性があるので、それに伴う授業内容も変更あり。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
『ワークで学ぶ保育内容「人間関係」』 菊池篤子著 みらい		授業態度(意欲・姿勢) 30%	
『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーバル館		課題への取り組み 30%	
『幼稚園教育要領解説』 文部科学省 フレーバル館		提出物・科目試験 40%	
『幼保連携型認定こども園教育保育要領』			

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 環 境		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもが環境を通して生活や遊びに取り組むことの大切さなど、実際の子どもの様子について触れながら行う。			
[授業の目的・ねらい] 子どもを取り巻く環境とその関わりについて実践的に学び、保育における環境の重要性やその意味を考えると共に乳幼児期の発達をふまえた環境構成や援助のあり方に理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 領域「環境」について理解し、子どもの発達と豊かな環境との関わりについての知識を深める。また、保育演習を通して生命の尊さや事物への探究心を養うことの重要性を習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・領域「環境」のねらいや内容を理解し、子どもを取り巻く環境との関わりと子どもの発達について理解し、説明できるようになる。 ・保育実践における環境構成と援助のあり方について習得し説明できるようになる。 ・保育の現場で行われる活動を行うことで、その活動のねらいや内容について理解し準備等の留意点が説明できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.領域「環境」についての理解と子どもを取り巻く環境の変化について説明をする。(第1章)【講義】 2.環境の領域について解説する。(第2章)【講義】 3.子どもの生活と環境について解説する。(第3章)【講義】 4.季節感を味わう【行事調べ】(第10章)【調べ学習】 5.行事や地域環境とのかかわり、社会環境（第11章)【講義・グループワーク】 6.自然とふれあい感動する【フィールドビンゴ】(第6章)【実技】 7.子どもと自然環境、遊びと環境教育、生命の営みに触れる【生き物の飼い方を調べてみよう】(第6章)【講義】 8.物事の法則性に気づく【小麦粘土】(第5章)【実技】 9.身の回りの物に愛着をもつ。【廃材を使って製作】(第5章)【実技】 10.子どもと物的環境、人的環境(第3章・第6章)【講義】 11.子どもと空間との関わり、数量と文字について 秘密の暗号解けるかな?「左右上下」数字の理解(第7章・第8章)【講義・グループワーク】 12.身の回りの物に愛着をもつ。【積み木遊び】(第5章)【実技】 13.環境構成について 保育室の環境構成を考えてみよう(第4章)障害児の保育環境(第12章)【講義】 14.環境教育について(第13章)情報メディアについて説明する。(第14章)【講義】 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] 授業には積極的に参加して受ける。製作等については準備品を忘れずに用意して創意工夫をして行う。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
[新版]保育内容「環境」		授業態度、出欠席遅刻、作品提出等 20% 定期試験 80%	

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 言 葉		授業の種類 演 習		授業担当者 霜田 道代	
授業の回数 1 5	時間数(単位数) 3 0 （1）	配当学科・学年・時期 福祉保育学科1年 前期		必修・選択 必 修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園での実務経験を活かし、生活や遊びなど経験談、実践例を交えながら授業を行う。 絵本体験の大切さを現場の実践を通して伝える。					
[授業の目的・ねらい] 乳幼児期の言葉の発達について理解する。生活や遊びの中で、どのような関わりをしたら言葉豊かに育つかを考え、実践できる力を養う。					
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期の言葉の発達過程について学び、保育者としてふさわしい支援の方法を知る。 乳幼児期の言葉の発達を促す児童文化財を知る。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 乳幼児期の言葉の発達過程を理解し、保育者として適切な援助ができるようになる。 乳幼児期の言葉の発達を促す児童文化財に触れ、実践できるようにする。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 領域「言葉」とは何かについて解説する。（講義・ディスカッション） 2. 領域「言葉」について詳しく解説する。（講義、ディスカッション） 3. 言葉の発達過程について解説する。（講義、ディスカッション） 4. コミュニケーションを育む様々な言葉遊びについて解説する。（講義、ディスカッション） 5. 絵本の重要性、読み方の基本など解説する。絵本ノート作成。（講義、ディスカッション） 6. 絵本の読み聞かせ実践を行う。①（講義・ワーク・ディスカッション） 7. 絵本の読み聞かせ実践を行う。②（講義・ワーク・ディスカッション） 8. 1冊の絵本について深く考察しまとめる。（講義・個人ワーク） 9. 絵本について調べたことを発表する。園児交流の死準備をする。（発表・個人ワーク） 10. 絵本の読み聞かせ実践を行う。③（実践・振り返りディスカッション） 11. 言葉を育てる保育者の関わりについて解説する。（講義・ディスカッション） 12. 保育の中で文字に親しむ経験について解説する。（講義・ディスカッション） 13. 特別な配慮を必要とする子どもへの支援について解説する。（講義・ディスカッション） 14. 言葉における今日的課題 子どもとメディアについて解説する。（講義・ディスカッション） 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 絵本をたくさん紹介していきたいと思っています。絵本ノートを活用し、絵本の引き出しを増やしていきましょう。					
[使用テキスト・参考文献] 保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」馬見塚昭久/小倉直子編著 ミネルヴァ書房			[単位認定の方法及び基準] 定期試験50％ 授業態度30％ 提出物20％		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 表 現		授業の種類 演 習		授業担当者 清水 和美
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 1 年 後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 教育現場、こどもの現場での実務経験を活かし、現場での実践事例などをもとに実践的な演習を行う。				
[授業の目的・ねらい] 領域「表現」の目標及び狙いを理解する。				
[授業全体の内容の概要] 子どもの表現を読み取り、感性や創造性を豊かにするための援助・指導のあり方や、保育者自身の表現の重要性について学ぶ。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] 子どもの表現を広く読み取り、その表現におけるものの環境(教材など)を理解し、表現の具体的な援助指導方法を理解し、実践できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 領域「表現」について(講義・ディスカッション) 2. 表現と保育をめぐる事柄についての理解を深める(講義・ディスカッション) 3. 身体表現～ボディーパーカッション(講義・演習) 4. リズムを使った表現①ドラムサークル(講義・演習) 5. リズムを使った表現②ドラムサークル、打楽器の奏法(講義・演習) 6. メロディー楽器を使った表現(講義・演習) 7. 声を使った表現①歌唱による表現(講義・演習) 8. 声を使った表現②話す力と非言語による表現(講義・演習) 9. 即興演奏(講義・演習) 10. サウンドスケープ～音で情景を表現する(講義・演習) 11. 劇遊びについて(講義・演習) 12. 子どもの感性と表現を育む保育者の役割(講義・ディスカッション) 13. ファシリテーション実習(子どもたちの良さを引き出す) 14. 表現の目指すもの～保育者として心がけたいこと(講義・ディスカッション) 15. 授業のまとめ、解説				
[履修に当たっての留意点] ・勇気を持って、まず、自分の想いや感じたことを素直に表現していきましょう。 ・自分が子どもだったら、保育者にどのように援助してもらえたら、楽しいのか、嬉しいのかを、常に意識しながら授業に臨んでみて下さい。				
[使用テキスト・参考文献] 『表現指導法』上野奈初美著 保育所保育指針・幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		[単位認定の方法及び基準] 定期試験50% 授業態度30% 提出物20%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名）		授業の種類		授業担当者	
音楽Ⅰ		演 習		吉野成子 長谷川三保子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修・選択	
60	120（4）	福祉保育学科1年 前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）					
担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する					
[授業の目的・ねらい]					
幼児教育の現場で必要とされる「音楽に関する活動」を進めていくための、基本的な知識や楽器（ピアノ）の演奏技術を学び、弾き歌いの基礎を習得する。特に初心者は、課題を確実に学習するために日常の自習が必須である。既習者は各人の進度に応じて課題を進める。					
[授業全体の内容の概要]					
1. ピアノ奏法の基礎を個人レッスンで学び、発展させる					
2. 読譜力の習得と実践					
3. 基礎的な音楽理論の習得					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. ピアノ奏法の基礎を理解する。初心者は教則本No. 49までを終了させる。					
2. 読譜力を養い、自力で弾くことに慣れる					
3. 音楽理論の基本を習得する					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1 オリエンテーション(授業内容・教材説明・担当グループ分け・実技レッスン・アンケート)					
2 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(初級)					
3・4 //					
5・6 //					
7・8 //					
9・10 //					
11・12 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(中級)					
13・14 //					
15・16 ピアノ実技前期中間進度見直し・音楽理論確認テスト					
17・18 //					
19・20 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論（中級）					
21・22 //					
23・24 //					
25・26 //					
27・28 前期実技・筆記まとめ					
29・30 前期終了まとめ					
(ソルフェージュは必要に応じて実施予定)					
[履修に当たっての留意点]					
演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
大学ピアノ教本(教育芸術社)			ピアノ実技試験		
ジュニアクラスの楽典問題集(ドレミ出版)			音楽理論筆記試験		
プリント適宜配布					

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 音楽Ⅰ		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子
授業の回数 60	時間数(単位数) 120（4）	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する				
[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ音楽の知識や技術を発展させる。応用として弾き歌いの基礎を学び、技術的、音楽的にも幅を広げ次年度へつなげることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 1. ピアノ奏法の習得に関して、学生個々の習熟度に応じた指導を行う 2. 読譜力の習得を進める 3. 音楽理論の知識を習得するため、課題を進める 4. 保育園実習で活用できる基本技術の習得 5. 和音記号、コードネームを学習してそれを使った伴奏付けに発展させる [授業修了時の達成課題（到達目標）] ピアノ奏法の自学自習を習慣づけるようにして、基礎力を身につけるとともに、応用力に発展させることを目指す。初心者はNo. 71までを終了とする。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1・2 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(上級) 3・4 〃 5・6 〃 7・8 〃 9・10 ピアノ実技個人レッスン・音楽理論(上級)確認テスト 11・12 ピアノ実技・伴奏付け実技(保育実習事前指導)個人レッスン 13・14 〃 15・16 〃 17・18 〃 19・20 〃 21・22 〃 23・24 後期実技・筆記まとめ 25・26 保育実習事前指導・2年次への課題指導(弾きうたい) 27・28 〃 29・30 〃				
[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の努力を期待する。				
[使用テキスト・参考文献] 前期に同じ		[単位認定の方法及び基準] 前期に同じ		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年前期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する。				
[授業の目的・ねらい] 1年次で学んだピアノの基礎技術を基に、保育の場で扱う教材を学習し、「うたう」ことを加えた技術の習得と表現方法を学ぶ				
[授業全体の内容の概要] テキストより課題曲を決め「弾きながらうたう」ことができるようになるための個人指導を行う。 課題曲が終了した者は、選択曲へ進む。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ピアノ伴奏をしながら豊かな声で、曲を理解して、子供たちをリードしてうたえるようにする。 また、使いやすい伴奏を自ら考え、弾けるようにする。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 授業概要説明・個人レッスン(春期休暇課題) 2. 伴奏付け実技指導・歌唱指導・個人レッスン 3. 個人レッスン 4. // 5. // 6. // 7. // 8. // 9. // 進捗の見直し・初見指導 10. // 11. // 12. // 13. 前期実技まとめ 14. 前期実技まとめ・実習事前実技指導 15. 実習事前実技指導 				

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 音楽Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 吉野成子 長谷川三保子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科2年後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、小・中・高校・大学やこども園、またピアノ実技指導の現場での経験を有している。ピアノ演奏に必要な基礎技術が習得できるよう指導を行う。また、学生個々が有する音楽の基礎知識を確認して活用できるように指導する				
[授業の目的・ねらい] 前期で学んだ技術の発展、実用への応用をめざす				
[授業全体の内容の概要] 「課題曲」に取り組み、終了した者は、選択曲にすすむ 実習曲の提示に則した指導も行う				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 「弾きうたい」できる楽曲を増やす よく通る、豊かな声での歌唱をめざす				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 実習前実技個人指導 2. 〃 3. 〃 4. 〃 5. 後期課題曲歌唱指導・個人レッスン 6. 個人レッスン 7. 〃 8. 〃 9. 〃 10. 〃 11. 〃 12. 〃 13. 〃 14. 後期実技まとめ 15. 学年まとめ ※ 必要に応じて、実習曲の指導 他授業との関連を考慮 歌唱指導適時				
[履修に当たっての留意点] 演奏技術の習得・向上は、日々の実践の積み重ねが重要である。そのために授業時間以外での個人練習は必須である。各々の積極的な努力を期待する。				
[使用テキスト・参考文献] 前期に同じ プリント適時配布		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 前期に同じ		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
図画工作 I		演習		赤石 花子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科1年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）					
担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関連する施設等の様々な実務経験の中で、造形活動指導の経験を活かした授業を展開する。様々な用具・材料、素材を使用して造形表現する具体的な方法を理解しながら学び、技術を習得する。					
[授業の目的・ねらい]					
豊かな感性と表現力・創造性を培うための保育力を身に付けるため、専門的な手法や技法の習得を目指す。					
[授業全体の内容の概要]					
・様々な演習を通し、幼児の表現力を引き出すための具体的な指導の仕方を学ぶ。					
・幼児の発達過程を理解しながら、興味関心を引き出し、造形活動繋の指導計画のあり方について学ぶ。					
また、活動が主体的に行われるために必要な保育者の援助についても考察していく。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)]					
① 保育現場で実際に活用できる、造形活動の手法・技法、ならびに用具や素材の基礎的な扱い方を身につける。					
② 平面・立体・共同での造形表現を通じ、実際の子どもの実際の年齢や発達に合わせた内容(材料や季節感など)を理解しながら、活動の実践がイメージできるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1.オリエンテーション ・授業概要説明、領域(表現)における造形活動の目的・意義について【講義→演習】					
2.平面造形① ・素材や用具の扱い方を知り、実際に平面造形を体験する。(クレヨン)【講義→演習】					
3.平面造形② ・年齢や発達・季節や行事等、場面を想定した平面造形を体験する。(えのぐ)【講義→演習】					
4.平面の共同表現 ・造形活動を共同的な学びへ発展させる体験をする。(えのぐ)【グループ演習】					
5.立体造形① ・自由に形が表現できる造形活動を体験する。(粘土)【講義→演習】					
6.立体造形② ・年齢や発達・季節や行事等、場面を想定した立体造形を体験する。(紙工作)【講義→演習】					
7.立体の共同表現① ・造形活動を共同的な学びへ発展させる体験をする。(ペープサート作成)【グループ演習】					
8.立体の共同表現② ・造形活動を通し、遊びと学びが協応する体験をする。(ペープサート作成)【グループ演習】					
9.造形活動の計画① ・子どもの年齢発達・興味関心に合わせた計画の作成方法を学ぶ。(レク計画)【講義→演習】					
10.造形活動の計画② ・計画に基づき、必要な準備と配慮や援助について考察する。(レク準備)【グループ演習】					
11.造形活動の共同表現① ・立体の造形活動を共同的な学びへ発展させる体験をする。(誕生日会作り)【グループ演習】					
12.造形活動の共同表現② ・造形活動を通して、遊びと学びが協応する体験をする。(誕生日会作り)【グループ演習】					
13.造形表現活動の展開① ・作品を遊びに用いる活動へ展開する。(レク準備③)【グループ演習】					
14.発表 ・行事や、保護者向けに発信する活動へ展開する(誕生日会ごっこ)【グループ演習】					
15.まとめ ・造形活動を子ども同士の遊びや、保護者向けに発信する活動へ展開する経験を通して、造形について振り返り、まとめをする【演習】					
[履修に当たっての留意点]					
① 作品をまとめるスケッチブックを用意する。					
② 造形活動に必要な用具を準備しておくこと。					
③ 絵の具、その他の様々な素材を扱うことを想定し、汚れてもよい衣服・またはエプロン等を準備しておくこと。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
『生活事例からはじめる造形表現』			授業態度(意欲・姿勢) 30%		
吉田 収、宮川 萬寿美 青踏社			作品への創意工夫 30%		
			作品の提出・科目試験 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 図画工作Ⅱ		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 選 択
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。			
[授業の目的・ねらい] 幼児期および自動機の発達段階に応じた、図画工作の目標と内容を理解したうえで基礎的な技術・知識を身に付け製作活動の喜びを子ども自ら感じられる活動になるよう様々な造形活動を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・創造的な造形活動を行う中で、実践に向けての指導の方法を習得する。 ・様々な教材に触れ、その特性を知り手法や方法を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 素材の特性を理解し、創造性豊かな様々なものを作ることができる。また、幼児指導において、発達段階に応じた援助について理解ができ実践できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 秋の製作について説明する。(折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】 2. 秋の製作について説明する。(年齢別指導方法、折り紙を使って折る、貼る、仕上げる。)【実技】 3. プラ版つくりの説明をする。【実技】 4. プラ版つくりの説明をする。【実技】 5. 新聞紙遊びの説明をする。【実技】 6. 音のなる物作りの説明をする。【実技】 7. スライム作りの説明をする。【実技】 8. 野菜スタンプの説明をする。【実技】 9. 月日曜日天気の日めくり表を作る説明する。【実技】 10. バルーンアートについて説明する。【実技】 11. 友だちの顔を描くことについての説明をする。【実技】 12. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 13. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 14. 皆で共同作品について説明する。(学校内の壁面構成をする)【実技】 15. まとめと解説 場所 階段(1F～2F, 2F～3F 3F～4F) 合同教室、食堂			
[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 提出作品 60% 授業態度、話し合いの様子事後報告書等 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者
リトミック		演 習		佐藤 由樹路
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科2年・後期	選 択	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育士・幼稚園教諭としての現場経験を活かし、子どもの発達段階や子どもの生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。				
[授業の目的・ねらい] 音楽やリズムを通して子どもの豊かな育ちへの援助と指導ができるよう、実践的指導力を習得することを目的とする。				
[授業全体の内容の概要] 子どもの感覚・意欲・創造性を育むため、音楽を構成している要素である音符・拍子等を体で表現し、リズム運動に必要な基礎となる体操やステップなどを学ぶ。				
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・音や音楽から感じたことを身体で表現することができる。 ・音楽感覚を育てるためのリズム指導の重要性について理解し実践することができる。 ・幼児期のリズム指導のさまざまな手法を習得し実践できる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.リトミックは何かについて説明する。(講義) 2.子どもの成長・発達と音楽(0・1・2歳)について説明する。(講義) 3.子どもの成長・発達と音楽(3・4・5歳)について説明する。(講義) 4.はじめのリトミックとして手遊びをする。(実技) 5.基礎リズムの動き(歩く、走る、ゆっくり歩くなど)をする。(実技) 6.基礎リズムの動き(ものを使って動いてみる)をする。(実技) 7.年齢別リトミックの実際(1歳)に動く。(実技) 8.年齢別リトミックの実際(2歳)に動く。(実技) 9.年齢別リトミックの実際(3歳)に動く。(実技) 10.年齢別リトミックの実際(4歳)に動く。(実技) 11.年齢別リトミックの実際(5歳)に動く。(実技) 12.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク) 13.リトミック指導をグループで考える。(グループワーク) 14.リトミック指導のグループ発表をする。(グループワーク) 15.まとめ				
[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。				
[使用テキスト・参考文献] ・基礎からわかるリトミック！リトミック！ ・楽しみながら体を動かす 1～5歳児のかんたん リトミック		[単位認定の方法及び基準] 受講態度、グループ活動や発表 80% 出欠席遅刻等 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
幼児体育		演習		星野 邦彦	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科 2年 後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 小学校での体育授業指導の実務経験をもとに、各運動遊びの環境校正や導入方法、実践、指導、補助などの方法が習得できるよう授業を展開していく。					
[授業の目的・ねらい] 子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術、及び身体表現等の表現活動に関する知識や技術を習得する。表現活動に係る教材等の活用と、保育の環境校正や具体的展開の技術を習得することを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 子どもの生活の中心は「あそび」である。子どもたちは多様なあそびの中で心身の発達・発育が促進され、運動技術も身についていく。保育所・幼稚園実習および実際の現場で実践できるように、子どもの運動あそびの基礎的・理論的根拠を把握し、実践に必要な方法・技術を身につける。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの発育発達に即した運動能力を理解し、年齢にあった運動遊びを考え指導できるようになる。 ・指導法や補助など、さまざまな運動遊びに必要な知識と技術を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション 運動あそびの必要性和目的について説明する。 2. 幼児期の心身の発達について説明する。 3. 運動あそびの指導の実際について説明する。 4. 「歩く・跳ぶ」の運動あそびを体験する。 5. 「走る」の運動あそびを体験する。 6. 「小さいボール」を使用した運動あそびを体験する。 7. 「大きいボール」を使用した運動あそびを体験する。 8. 「縄」を使用した運動あそびを体験する。 9. 「ドッジビー」を使用した運動あそびを体験する。 10. 「フープ・積み木」を使用した運動あそびを体験する。 11. 「巧技台・マット」を使用した運動あそびを体験する。 12. 「身近なもの」を使用した運動あそびを体験する。 13. 「なわとび」を使用した運動あそびを体験する。 14. グループでリズムなわとびを作成する。 15. リズムなわとびグループ発表をする。 まとめ					
[履修に当たっての留意点] 日々の体調管理をしっかりと行う。 運動に適した服装で授業に参加する。					
[使用テキスト・参考文献] 必要に応じて資料を配布する。 参考文献 体育あそび120 岩崎洋子 著 チャイルド本社			[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・態度・協調性・発表など)70% 出席状況30%により総合評価をおこなう。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育Ⅰ		授業の種類 講義	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園教諭としての現場経験と子育て経験を活かし、乳児の発達段階に応じた関わり方や乳児の生活、遊びについて実際の子どもの様子について触れながら行う。			
[授業の目的・ねらい] 乳児保育に関する全般的な知識と保育の内容5領域の専門知識と技能を理解し実践につながる学びをする。 [授業全体の内容の概要] 3歳未満児の発育・発達の理解と、保育の場における現状と課題について理解し保育現場で必要な事柄について習得する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・乳児保育の基本的な意義を理解し、生活や遊びの実際と援助の方法を知り実践できる。 ・3歳未満児への具体的な配慮と運営体制の理解を深め、実践に向けての理解ができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)現状を理解し環境構成等ができるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.乳児保育の基本的な考えを説明する。(子どもの主体性、個々の援助、体験と学びなど)【講義】 2.多様な保育について説明をする。(障害のある子、外国籍の子、家庭事情など)【講義】 3.自分の乳幼児期について振り返り乳幼児期の特徴について解説する。(自分の母子手帳を持参する)【講義】 4.乳幼児における生活・遊びの実際と援助について解説する。(1日の流れについて)【講義】 5.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(おむつ替えと着替えをする)【実技】 6.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(ミルクづくり、離乳食を食べてみる)【実技】 7.乳幼児における生活の実際と援助について説明し実践する。(抱っこをする、抱っこひもを使う)【実技】 8.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(健康、人間関係、環境、言葉について)【講義】 9.発育・発達を踏まえた生活・遊びについて解説する。(表現、音楽、造形、保育者と子ども同士)【講義】 10.手作りおもちゃを作るための構想を考え、製作をする説明をする。(手作りおもちゃを作る。)(【実技】 11.手作りおもちゃを作る皆の前で発表をする。(自由製作、発表、まとめ)【実技】 12.乳幼児における心身の健康と安全管理について説明する。【講義】 13.乳幼児における配慮と実際について説明する(集団生活、環境変化等への配慮)【講義】 14.乳児保育における計画と実際について解説する(長期、短期計画と個別、集团的計画)【講義】 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] 積極的に授業に参加する。保育者になった時のことを踏まえて授業を受ける。			
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱアクティブラーニング対応 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践		[単位認定の方法及び基準] 受講態度、出欠席遅刻、提出物 20% 定期試験 80%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 15	時間数(単位数) 30(1)	配当学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目(実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園教諭として勤務する中で、子育て支援活動として未就園児とその保護者を対象に活動をしてきたことを踏まえて講義をする。また、子育て経験から未満児保育の子どもの様子やその保護者との関わりについて実践を交え授業を進めていく。			
[授業の目的・ねらい] 前年度の基礎編を踏まえ、実践編として実際の0, 1, 2歳児の生活の様子を通してそのときどきの関わり方と保護者への対応の仕方について具体的に考える。 [授業全体の内容の概要] 課題に対しての、グループワーク、ロールプレイ、ディスカッション、振り返りなどの方法を用いたアクティブラーニングを行い、子どもや保護者一人ひとりに対しての対応の仕方を学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・子どもの個性と発達の様子をとらえる観察力や臨機応変な思考力など実践的な応用力を養い関わるができるようになる。 ・3歳未満児とその保護者との関わり方や「より良い対応」についてワークを通じて実践することができる。 ・多様化する(多国籍家庭や貧困家庭など)保育の現場の状況の中で実際の関わり方を習得し実践しようとするができる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.実践編の登場人物について理解を深める。(ワークシートをまとめる。)【講義】 2.朝の受け入れ活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 3.朝の受け入れ活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをまとめる。)【講義】 4.食事活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 5.食事活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 6.睡眠活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 7.睡眠活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 8.排泄活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 9.排泄活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 10.着脱・清潔活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 11.着脱・清潔活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 12.遊び活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークをまとめる。)【講義】 13.遊び活動の相談事例について解説する。(ロールプレイワークをしてまとめる。)【講義】 14.午後のお迎え・お帰り活動の保育事例を説明する。(ベーシックワークとエピソードワークとロールプレイワークをまとめる。)【講義】 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] 保育者になった気持ちで、子どもや保護者の対応の事例を考える。他者の意見にも耳を傾ける。積極的な発言をしていく。			
[使用テキスト・参考文献] 乳児保育Ⅱーアクティブラーニング対応ー 1日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践		[単位認定の方法及び基準] 定期試験(80%)授業態度、出欠席(20%)	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
子どもの健康と安全		演習		赤田 実千代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科2年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 大学病院の精神科病棟看護師、小学校の養護教諭、保健センター看護師として乳幼児健診や予防接種の実務経験を活かし、保育者として子どもの命を守り子どもの健やかな育ちを支えるために必要な知識・技術について講じます。					
[授業の目的・ねらい] 保育士には、ますます多様な役割が求められており、医学や看護の知識も必要とされるなかで、子どもの保育における健康および安全の管理に関する知識をもとに、実践力を身につける。					
[授業全体の内容の概要] 子どもの保育における健康や安全管理に関する知識をどのように保育の現場で実践していくのかを、実際に体験する、調べる、考えることを通し、実践力を身につける。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ①保育における保健的観点をふまえた保育環境や援助について理解する。 ②保育における衛生管理・事故防止および安全対策・災害対策について具体的に理解する。 ③子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 ④保育における感染対策について、具体的に理解する。 ⑤子どもの発達や状態などに即した適切な対応について、具体的に理解する。 ⑥子どもの健康および安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画および評価について、具体的に理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.子どもの健康と保育の環境：子どもの健康な育ちを支えるうえで望ましい環境＜講義＞ 2.子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康：健康観察の具体的なポイント＜講義・演習＞ 3.衛生管理：子どもの健やかな成長、疾病予防、感染拡大予防につながる衛生管理＜講義・演習＞ 4.事故防止および安全対策：子どもの事故の現状や課題をふまえた事故防止対策や安全対策＜講義・演習＞ 5.災害への備えと危機管理：災害発生時に求められる判断力と行動力＜講義・演習＞ 6.体調不良や傷害が発生した場合の対応：体調不良時に必要な観察項目の基本や応急処置＜講義・演習＞ 7.救急処置および救急蘇生法：子どもに起こりやすい事故、適切な救急処置、救急蘇生法＜講義・演習＞ 8.感染症の集団は発生と予防と対応：感染予防策＜講義・演習＞ 9.保育における保健的対応：慢性疾患児、行動に問題がある子どもへの保健的対応＜講義・演習＞ 10.3歳未満時への適切な対応：3歳未満児の成長発達と生活の特徴、成長のアセスメント＜講義・演習＞ 11.個別的な配慮を必要とする子どもへの対応：食物アレルギーへの対応の方法＜講義・演習＞ 12.障害のある子どもへの適切な対応：障害のとらえ方とそれぞれの障害の特性、かかわり方＜講義・演習＞ 13.職員間の連携・協働と組織的取り組み：保育所内での連携、多機関・多職種との連携＜講義・演習＞ 14.保育における保健計画および評価：保健計画および成長の評価の資料となる身体計測の技術＜講義・演習＞ 15.子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携：医療的ケアを必要とする子どもの支援＜講義・演習＞					
[履修に当たっての留意点] 1年時に学習した「子どもの保健」について復習し、理解したうえで講義に臨むこと。					
[使用テキスト・参考文献] 新基本保育シリーズ16 子どもの健康と安全 松田博雄、金森三枝 中央法規 参考資料は随時提示			[単位認定の方法及び基準] 課題・演習への取り組み 50％ 課題・ミニテスト 50％		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育		授業の種類 演 習	授業担当者 三澤 章子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援学校(知的肢体)に教員として勤務。その後「子どもためのダンスと音楽」及び障がい者のダンスを学ぶ。その経験をもとに幼児や障がい児に絵本の読み聞かせ及び「わらべうた遊び」を実施。 平成19年より障がい児(者)のダンスグループでダンスの指導をおこなっている。			
[授業の目的・ねらい] 1 障がい児の特性を正しく理解し、援助の具体的な方法を学ぶ。 2 障がい児のためのダンス・わらべうたなどの遊びを学び実践に生かす。 3 ダンス・わらべうたなどの遊びと障がいを繋げて学ぶことでより具体的に障がいの理解を深める。 [授業全体の内容の概要] 「気になる子のためのわらべうた」から子どもの問題に合ったわらべうたを実技から学ぶ。さまざまな障害の特性を知り、それに合った身体遊び・ダンスを学ぶ。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] 1 障害について理解し障害に応じた支援ができるようになる。 2 障害児の心身をはぐくむ遊びとしてのダンス・わらべうたなどが実践できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション「障害児保育」について説明する。 2. 「知的障害」について講義 3. 「こどものための簡単なダンスを作ろう」実技 4. グループで簡単なダンスを作る。実技 5. グループ発表とまとめ 6. 「肢体不自由」について講義。 7. 「肢体不自由のこどものためのダンスを作ろう」実技 8. グループでダンスを作る。実技 9. グループ発表とまとめ 10. 「視覚障害」について学ぶ。講義 11. 「視覚障害のこどものためのダンスを作ろう。実技 12. グループでダンスを作る。実技」 13. グループ発表とまとめ 14. 「聴覚障害」について講義 15. 「聴覚障害のこどものための遊び」について発表			
[履修に当たっての留意点] わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
『気になる子』のわらべうた」クレヨンハウス		講義のまとめりごとの実技や課題の提出 80%	
		「講義内容」のノートの提出・授業態度 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 障害児保育		授業の種類 演 習		授業担当者 三澤 章子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期		必修・選択 必 修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）は、前期と同じ。				
[授業の目的・ねらい]「授業全体の内容の概要」「到達目標」は、前期と同じ。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 コマ数 1. 『光とともに』視聴及びディスカッション 2. 「①発達障害を理解する」講義 3. 『光とともに』視聴及びディスカッション 4. 「②発達障害を理解する」講義 5. 「気になる子とわらべうた」講義・実技 6. 「からだを育てるわらべうた・動きまわる子など」講義・実技 7. 「からだを育てるわらべうた・コントロールができない子」講義・実技 8. 「からだを育てるわらべうた・アンバランスな子」講義・実技 9. 「心を満たすわらべうた・コミュニケーションが苦手な子など」講義・実技 10. 「心を満たすわらべうた・関わりの難しい子など」講義・実技 11. 「心を満たすわらべうた・不安の強い子など」講義・実技 12. 「きっかけづくりのわらべうた」講義・実技 13. わらべうたのまとめ実技発表にむけて 14. わらべうたのまとめ実技発表にむけて 15. 発表				
[履修に当たっての留意点] わらべうたやダンスの実技は恥ずかしがらず参加して身につけ、ボランティアなどいろいろな場面で実践してほしい。				
[使用テキスト・参考文献] 『『気になる子』へのわらべうた』クレヨンハウス		[単位認定の方法及び基準] 講義のまとめりごとの課題の提出と実技 80% 「講義・内容」のノートの提出 授業態度 20%		

授 業 概 要

授業のタイトル（教科名） 社会的養護Ⅱ		授業の種類 演習	授業担当者 大山 知恵子
授業の回数 15	時間数（単位数） 30（1）	配当学年・時期 福祉保育学科2年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 特別支援教育に携わってきた。児童・生徒の中には施設から通学している子や、家庭から通学していたが途中から施設入所となる子もいた。そういった子どもたちに関わってきた経験を活かして、社会的養護の意義や現状について伝えていく。			
〔授業の目的・ねらい〕 保育を取り巻く社会環境は大きく変わり、都市化は地域生活の有り様に影響を与え、女性就労の増大、核家族化や少子化は家庭生活の根本から問い直しが求められる。豊かな人間性を持った子どもを育てることが保育の特性である。総体的に社会的養護の内容を理解し、考察していく。 〔授業全体の内容の概要〕 施設における子どもの養護は、福祉・教育・心理の統合が重要であり、心の共感を育成し、実践に生かしていくことを目的としたい。 〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 社会的養護の意義を総体的に理解し、人間性を育て、実践に役立たせることができる。			
〔授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法〕 コマ数 1. 科目オリエンテーション 社会的養護における子どもの理解と支援の基本について概説する【講義】 2. 「子どもの最善の利益」の、様々なケースについて解説する【講義・視聴】 3. 児童自立支援計画の作成と記録及び自己評価の意義について解説する【講義】 4. 社会的養護における保育士等の専門性と社会的養護の体系について解説する【講義】 5. 児童福祉施設の概要（児童養護施設・児童自立支援施設）【グループ調査・発表】 6. 児童福祉施設の概要（障害児入所施設・乳児院等）【グループ調査・発表】 7. 里親制度の特徴とその実際について解説する【講義・視聴】 8. 保育士の業務について解説する【講義・一覧表作成】 9. 虐待された子どもへの支援について解説する【講義・ディスカッション】 10. 子どもと家族への支援・家庭支援について解説する【講義・ディスカッション】 11. 相談援助の技術の活用について解説する【講義・RP】 12. 基本的日常生活支援について解説する【講義・ディスカッション】 13. 退所に向けた支援の基本について解説する【講義】 14. 地域連携と家庭支援・地域住民と関係について解説する【講義・ディスカッション】 15. 社会的養護の課題と将来像について解説する【講義・発表】			
〔履修に当たっての留意点〕 提示された課題は、次の授業までに調べる。 疑問に思ったことは調べたり質問をしたりして、しっかりと理解する。			
〔使用テキスト・参考文献〕 『児童の福祉を支える演習社会的養護Ⅱ』 萌文書林 編著者 吉田眞理 著者 高橋一弘 村田紋子		〔単位認定の方法および基準〕 試験50%・提出物50%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
子育て支援		演習		霜田 道代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科2年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 子ども支援、保護者支援の双方に必要な基礎的知識の内容について、保育園での実務経験を基に、実践につながる講義をする。					
[授業の目的・ねらい] ・子どもの最善の利益が尊重されるために、保育者・家庭・地域が連携することの大切さを学ぶ。					
[授業全体の内容の概要] ・子どもとその保護者、地域とかかわっていくための基礎的な知識や環境構成について学ぶ。 ・様々な事例考察を重ね、地域の子育て支援の拠点としての保育所、保育者の役割を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ① 社会的背景をふまえた子育て支援の本質を理解し、専門性をもつ立場として、子ども、保護者、地域にかかわる人材になることを目指す。 ② コミュニケーション力とアセスメントスキルを身に着け、実践力を養う。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.オリエンテーション ・授業概要説明 子育て支援とはなにかについて考察する<講義・ディスカッション> 2.事例考察(進入園の親子について考察する)<講義・ディスカッション> 3.保護者との信頼関係について考察する<講義・ディスカッション> 4.事例考察(保護者の現状を知る)<講義・ディスカッション> 5.事例考察(アフターコロナの子育て支援)<講義・ディスカッション> 6.妊娠期からの子育て支援について考察する<講義・ディスカッション> 7.保護者の労働環境について考察する <講義・ディスカッション> 8.懇談会の意義について考察する<講義・ディスカッション> 9.事例考察(トイレトレーニングについて) <講義・ディスカッション> 10.事例考察(食事について) <講義・ディスカッション> 11.外国籍の保護者対応について考察する<講義・ディスカッション> 12.地域とのつながり・専門機関との連携について考察する<講義・ディスカッション> 13.子育て支援実践演習①連絡帳<講義・個人ワーク> 14.子育て支援実践演習②ドキュメンテーション、おたより<講義・個人ワーク> 15.まとめ					
[履修に当たっての留意点] 学びを実践に活かすため、さまざまな場面を想定しながら自分の考えを積極的に発信してほしい。					
[使用テキスト・参考文献] これからの子ども・子育て支援 風鳴社			[単位認定の方法及び基準] 授業態度(意欲・姿勢) 30% 課題への取り組み 30% 提出物・科目試験 40%		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類	授業担当者
児童文化		演 習	鈴木 敦子
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
15	30(1)	福祉保育学科2年・後期	選 択
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園での保育者・園長としての経験を活かし、人間形成上一番大切な時期を過ごすため、幼児期に子どもが製作素材を自主的に‘今‘どうありたいのか、またどうしたらできるのか、試行錯誤し、自らの言葉で人に伝えられるような保育を望んでいる。児童文化を通し身近な素材を活かし作る楽しさを精神力、能力、体力を生かし前向きな人間とし進めるような時間を共にありたい。			
[授業の目的・ねらい] ・保育者を目指す者として、こどもの接し方・見方・考え方等、ためにどのように配慮するのか。 ・豊かな人間性、感性を磨き、積極的に学び向上する。 [授業全体の内容の概要] ・児童文化面から保育に関する知識や技術を修得するため、グループ、保育実践を通し、質の向上を目指す。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育者としての使命感、責任感、人間性を磨く気持ちをもつ。 ・教材研究で修得した技能を保育の様々な分野で主体的に実践できる保育技術を高める。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 児童文化とは・・・こどもの関わる遊び・変化していく社会と児童文化 2. 美術感覚一色・形の組み合わせ等考え工夫して感性を豊かに 3. 個人・グループ活動を通し、いろいろな見方・考え方を引き出す 4. ディスカッション、意見、考え方を自分のことばで伝える 講師は学生の活動をサポートし導く 5. 実践 子どもとふれあう 学生はグループ活動 幼児と交流 6. 実践の反省評価・・・グループごとに話し合う・まとめ・発表しあう 7. 手作り絵本・・・名作童話に秘められている”心育で” 講義 プリント 絵本が好きになる条件 シナリオ作りの準備を始める 教材をどのように活かすか こどもが好き絵本 こどもに必要とする絵本 色彩の美しいものを提供 グループ活動 8. 絵本づくり・・・物語の筋書きを考え文書に絵を合わせる 9. 積み木を使って・・・わくわく積み木・トントン積み木 積み並べる道車 10. 手作り絵本発表・・・ 個人作品発表 反省 評価 11. ボルカホン制作・・・ DVD をみる 楽器(太鼓)をつくる 制作後歌、リズムに合わせ合奏 楽 器 *リーダーを決め、子どもと遊ぶときボルカホン演奏ができるよう舞台に用意 演奏後子どもにどのようなものか(たたく。触る) 子どもとの合奏 12. 実践 子どもとふれあう グループ活動 想定、気づきに留意し幼児と交流 ボルカホン演奏 道具を使いダイナミックに遊びを展開 13. 実践の反省評価・・・グループごとに事後の話し合いのまとめをする 発表をし合う・気づき、想定はどうであったか(社会生、人間性、知識、技術) 14. まとめと解説・・・教材研究を通し児童文化に関する様々な分野の技術は高められたか？意見交換 15. 保育者になるために・・・ 児童文化を通し保育者としてどのような人間性と質の向上を目指すか			
[履修に当たっての留意点] 交流を通じて、何に気づき、子どもから何を学んだのかを常に振り返り自分のものにしてほしい。			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
		レポート	40%
		提出物	40%
		授業態度	20%

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて、クラス全体で学んだことを活かし、その集大成としての発表へと導く。			
[授業の目的・ねらい] ・保育者を目指す学生として、保育の現場について知り、実践的な演習体験を通じて保育者に必要とされる技術や実践力を養うことを目的とする。実践活動を通して、自分自身のスキルを高め、他の学生と協力することにより協調し合い、学び合いをしていく。 [授業全体の内容の概要] ・保育の現場で活かせる保育技術の習得と向上を目指す。 ・施設概要や利用者のニーズ等について知り、保育者の役割を理解する。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・実習の際や保育者となった時に自信をもって実践できるよう、各分野の演習から様々な保育技術や支援方法を習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育技術についての授業の進め方について【講義】 自分が折れるものを折ってみよう【実技】 2. 折り紙20種づくり ①【実技】 3. 虫歯予防デー製作【実技】 4. 時計製作【実技】 5. 作品発表【実技】 6. 作品をもって園児と交流をしよう【実技】 7. 手遊びをしよう【実技】 8. 前橋七夕まつり準備(ペープサートづくり)【実技】 9. 前橋七夕まつり準備(ペープサートづくり)【実技】 10. 前橋七夕まつり準備(ペープサートづくり)【実技】 11. 2年生と交流【実技】 12. 2年生と交流【実技】 13. 2年生と交流【実技】 14. 2年生と交流【実技】 15. まとめ			
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。積極的に授業参加し技術を深める。			
[使用テキスト・参考文献] ・必要に応じてプリント配布		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 発表の結果 20% 試験 20%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅰ		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年・後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 幼稚園・認定こども園での勤務経験を活かし、現場で実践できる保育技術の習得を目指し、演習を通して学生の保育技術向上を図る。年度末の学習成果発表会にむけて、クラス全体で学んだことを活かし、その集大成としての発表へと導く。			
[授業の目的・ねらい] ・保育者を目指す者として、保育の現場で活かせる技術の習得し、実践的な演習体験や講義を通じ 保育者に必要とされる力を養うことを目的とする。 [授業全体の内容の概要] ・保育の現場で活かせる保育技術の習得と向上を目指し、活動の流れに反映できるようになる。 [授業終了時の達成課題(到達目標)] ・実習に向けて、また保育者となった時に自信をもって実践できるよう、各分野の演習から自らの保育の引き出しを増やしていく。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. ミニ運動会運営委員会【グループワーク】 2. パネルシアター制作①【実技】 3. パネルシアター制作②【実技】 4. パネルシアター発表【実技】 5. ミニ運動会予行練習【実技】 6. 自立課題制作(施設関係)①【実技】 7. 構造化制作(施設関係)②【実技】 8. 学習成果発表会準備・練習①【実技】 9. 学習成果発表会準備・練習②【実技】 10. 学習成果発表会準備・練習③【実技】 11. 名札作り【実技】 12. 実習で活かせる保育技術①【実技】 13. 実習で活かせる保育技術②【実技】 14. 実習で活かせる保育技術③【発表】 15. まとめ			
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。積極的に授業参加し技術を深める。			
[使用テキスト・参考文献] 前期と同じ		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 発表の結果 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 赤石 花子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・前期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、実践で役立つ遊びや活動を実践例を交えながら授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] ・保育現場で必要とされる保育技術を身に付け、実践力を高める。 ・保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを目指す。				
[授業全体の内容の概要] ・保育の現場で実践出来る保育技術を学び、遊びや活動の引き出しを増やす。 ・子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.オリエンテーション 壁面構成を学ぶ。壁面作成・グループ活動〈演習〉 2.壁面作成・グループ活動〈演習〉 3.壁面作成・グループ活動〈演習〉 4.保育実習Ⅰ（施設）における事前指導〈講義・演習〉 5.保育実習Ⅰ（施設）における事前指導〈講義・演習〉 6.壁面構成グループ活動発表、振り返り。〈ディスカッション〉 7.学習成果発表会に向けてテーマを決める。〈ミーティング〉 8.学習成果発表会に向けてグループ分け、活動。〈ミーティング〉 9.学習成果発表会に向けてグループ活動。〈演習〉 10.学習成果発表会に向けてグループ活動。〈演習〉 11.学習成果発表会に向けてグループ活動。〈演習〉 12.学習成果発表会に向けてグループ活動。〈演習〉 13.学習成果発表会に向けてグループ活動。〈演習〉 14.学習成果発表会に向けてグループ中間発表。〈発表〉 15.学習成果発表会に向けてグループ活動中間発表振り返り〈ディスカッション〉				
[履修に当たっての留意点] 保育の引き出しを増やし、今後の自分に繋げていく意識を持ち授業に臨む。 学んできた集大成を発表する場となるよう協力し合って学習成果発表会を作り上げていく。				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 授業の意欲・態度 50％ 提出物 50％		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育技術Ⅱ		授業の種類 演 習		授業担当者 赤石 花子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科2年・後期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験の中で、実践で役立つ遊びや活動を実践例を交えながら授業を行う。				
[授業の目的・ねらい] ・保育現場で必要とされる保育技術を身に付け、実践力を高める。 ・保育技術、知識の向上を目指し、保育者としてのスキルアップを目指す。				
[授業全体の内容の概要] ・保育の現場で実践出来る保育技術を学び、遊びや活動の引き出しを増やす。 ・子どもの興味関心や、発達を考慮した遊びを提案、展開できる技術を学ぶ。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・様々な保育技術を取り入れ、福祉保育学科としての集大成の作品を仕上げる。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.学習成果発表会に向けてクラス活動〈ミーティング〉 2.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 3.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 4.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 5.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 6.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 7.学習成果発表会に向けてクラス活動中間報告会〈ミーティング〉 8.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 9.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 10.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 11.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 12.学習成果発表会に向けてクラス活動〈演習〉 13.学習成果発表会に向けてグループ活動確認〈演習〉 14.学習成果発表会に向けてクラス活動〈リハーサル〉 15.学習成果発表会に向けて最終確認〈演習〉				
[履修に当たっての留意点] 保育の引き出しを増やし、今後の自分に繋げていく意識を持ち授業に臨む。 学んできた集大成を発表する場となるよう協力し合って学習成果発表会を作り上げていく。				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 授業の意欲・態度 50％ 提出物 50％		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。			
[授業の目的・ねらい] ・保育所・児童福祉施設等の社会福祉施設の役割や機能について理解する。 ・保育士の職務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 ・保育計画、観察、記録及び自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学ぶ。 [授業全体の内容の概要] ・保育の倫理と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、地震の課題をもって実習に臨む。 ・保育の流れを理解し、保育の現場で役立つ保育技術について学び、習得する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1.授業内容説明・実習までの流れ/保育所・幼稚園・認定こども園・児童福祉施設について(保育士の倫理)【講義】 2.2年生の実習報告会の参加(保育所)① 3.2年生の実習報告会の参加(保育所)② 4.実習先調べ(保育所)【調べ学習】電話のかけ方について【講義→グループワーク】 5.実習先へ連絡をする(保育所)。【実践】 6.実習先決定(幼稚園、認定こども園)電話のかけ方について【講義→グループワーク】 7.施設実習について【講義】 8.実習先調べ(施設)【調べ学習】 9.2年生の実習報告会の参加①。 10.2年生の実習報告会の参加②。 11.実習生に求められるもの、実習課題の立て方。 12.実習日誌の書き方①【講義】 13.実習日誌の書き方②【講義】 14.指導案の書き方や実践【講義→グループワーク】 15.まとめ			
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。			
[使用テキスト・参考文献] ・これからの時代の保育者養成・実習ガイド、保育福祉小六法2022年度版(みらい) ・保育所保育指針(解説書を含む)・幼稚園教育要領(解説書を含む) ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領(解説書を含む)			[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 試験の結果 40%

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導 I		授業の種類 演 習	授業担当者 佐藤 由樹路
授業の回数 30	時間数(単位数) 60 (2)	配当学年・時期 福祉保育学科1年 後期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目 (実務経験の概要と授業との関連性) 幼稚園・認定こども園での勤務経験をもとに、幼稚園教育実習、保育所実習にむけた指導を行う。また、実習に際しては、実習に必要な実技指導と共に実習生としての姿勢を学生と再度確認し合い、細やかな事前指導を実施する。実習後の評価、反省から、個々の今後の課題を見出し、保育者としての専門性を高めていく。			
[授業の目的・ねらい] ・保育実習 I の意義・目的を理解し、自らの課題を明確にする。 ・保育の計画、観察を、記録および自己評価等保育実習に向けて必要な知識や技術を学び、実践の場で生かしていく。 ・実習施設における子ども(利用者)の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務について理解する。 ・実習の事後指導を通じて、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。			
[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ねながら、円滑にまた充実した実習となるよう学びを深めていく。			
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習 I の意義や目的、内容や方法、心得を学び、自身の課題を持って実習に臨めるようになる。 ・実習終了後には実習総括・評価から新たな自己の課題を明確にし、解決に向けて努力できるようになる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 2A施設実習後の報告会交流 2. 施設実習先の確定と実習先調べ【講義】 3. 施設実習先調べと発表【講義】 4. 保育実習に向けて①(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 5. 保育実習に向けて②(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 6. 保育実習に向けて③(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 7. 保育実習に向けて④(鈴蘭幼稚園 園長先生の話)【講義】 8. 施設実習に向けて①(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 9. 施設実習に向けて②(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 10. 施設実習に向けて③(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 11. 2A保育実習ⅡⅢ報告会参加① 12. 2A保育実習ⅡⅢ報告会参加① 13. 施設実習に向けて④(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】 14. 施設実習に向けて⑤(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】、介護技術を学ぼう【実技】 15. 施設実習に向けて⑤(日誌、個人票、誓約書、同意書等)【講義】、介護技術を学ぼう【実技】まとめ			
[履修に当たっての留意点] ・実践的活動や実習をふくむ授業内容となっているため、今後の日程調整により授業のコマ割りが前後することがあるので、授業中の伝達事項にも留意すること。授業は、積極的に参加する。			
[使用テキスト・参考文献] * 前期と同じ		[単位認定の方法及び基準] 授業態度 20% 提出物 40% 試験の結果 40%	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅱ		授業の種類 演習		授業担当者 霜田 道代
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科・2年・前期	必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園勤務の経験を活かし、保育実習Ⅰの実施に向けた準備と、保育実習Ⅱのための指導案作成等の指導を行う。実践機会を多く設け、現場での実習に役立つようサポートする。				
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。				
[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。				
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。				
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育実習ⅡⅢ概要説明、保育実習Ⅰ(施設)実習前オリエンテーション<講義・個人ワーク> 2. 保育実習Ⅰ(保育)実習報告会<発表・グループワーク> 3. 保育実習Ⅰ(保育)実習報告会<発表・グループワーク> 4. 保育実習Ⅰ書類作成、日誌作成<講義・個人ワーク> 5. 保育実習Ⅰ(施設)実習日誌指導<講義・個人ワーク> 6. 保育実習Ⅰ(施設)実習計画書作成方法等最終指導<講義・個人ワーク> 7. 保育実習Ⅰ(施設)直前最終指導<講義・個人ワーク> 8. 保育実習Ⅰ(施設)振り返り<個人ワーク> 9. 保育実習Ⅰ(施設)情報共有<発表> 10. 保育実習Ⅰ(施設)実習報告会<発表・グループワーク> 11. 保育実習Ⅰ(施設)実習報告会<発表・グループワーク> 12. 保育実習ⅡⅢ実習先決定<講義・個人ワーク> 13. 保育実習ⅡⅢについて実習の概要を確認する。<講義・個人ワーク> 14. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流①<実践・グループワーク> 15. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流②<実践・グループワーク>				
[履修に当たっての留意点] 実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。				
[使用テキスト・参考文献] これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規)		[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
保育実習指導Ⅱ		演習		霜田 道代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
30	60(2)	福祉保育学科・2年・後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園勤務の経験を活かし、保育実習Ⅰの実施に向けた準備と、保育実習Ⅱのための指導案作成等の指導を行う。実践機会を多く設け、現場での実習に役立つようサポートする。					
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流③＜実践・グループワーク＞ 2. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流④＜実践・グループワーク＞ 3. 保育実践から学んだことを振り返る。保育実習ⅡⅢ個人票作成。＜レポート作成・個人ワーク＞ 4. 保育実習Ⅱ日誌作成、オリエンテーションについて＜講義・個人ワーク＞ 5. 日誌の書き方について講義する＜講義＞ 6. 保育実習Ⅱに向けて保育技術のスキルアップを図る。＜講義・グループワーク＞ 7. 保育実習Ⅱ実習目標、目的の確認をする。＜講義・グループワーク＞ 8. 責任実習指導案作成を行う。＜個人ワーク＞ 9. 責任実習指導案について共有し、意見交換を行う。＜発表・グループワーク＞ 10. 保育実習ⅡⅢの最終事前指導を行う。＜講義・個人ワーク＞ 11. 保育実習Ⅱのお礼状、振り返りシート等事後指導を行う。＜講義・個人ワーク＞ 12. 保育実習Ⅱ責任実習報告会＜発表・グループワーク＞ 13. 保育実習ⅡⅢ実習報告会＜発表・グループワーク＞ 14. 保育実習ⅡⅢ実習報告会＜発表・グループワーク＞ 15. まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。					
[使用テキスト・参考文献] これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規)			[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習	授業担当者 赤石 花子
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年・前期	必修・選択 必修
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。			
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。 [授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。 [授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 保育実習ⅡⅢ概要説明、保育実習Ⅰ(施設)実習前オリエンテーション<講義・個人ワーク> 2. 保育実習Ⅰ(保育)実習報告会<発表・グループワーク> 3. 保育実習Ⅰ(保育)実習報告会<発表・グループワーク> 4. 保育実習Ⅰ書類作成、日誌作成<講義・個人ワーク> 5. 保育実習Ⅰ(施設)実習日誌指導<講義・個人ワーク> 6. 保育実習Ⅰ(施設)実習計画書作成方法等最終指導<講義・個人ワーク> 7. 保育実習Ⅰ(施設)直前最終指導<講義・個人ワーク> 8. 保育実習Ⅰ(施設)振り返り<個人ワーク> 9. 保育実習Ⅰ(施設)情報共有<発表> 10. 保育実習Ⅰ(施設)実習報告会<発表・グループワーク> 11. 保育実習Ⅰ(施設)実習報告会<発表・グループワーク> 12. 保育実習ⅡⅢ実習先決定<講義・個人ワーク> 13. 保育実習Ⅱについて実習の概要を確認する。<講義・個人ワーク> 14. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流①<実践・グループワーク> 15. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流②<実践・グループワーク>			
[履修に当たっての留意点] 実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。			
[使用テキスト・参考文献] これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規)		[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価	

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名) 保育実習指導Ⅲ		授業の種類 演習		授業担当者 赤石 花子	
授業の回数 30	時間数(単位数) 60(2)	配当学科・学年・時期 福祉保育学科 2年・後期		必修・選択 必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 担当教員は、幼保連携型こども園や教育に関する施設等の様々な実務経験を活かし、保育実習Ⅰを基に、実習に向けた準備と指導案作成、報告等行いながら、実践で役立てるよう指導する。					
[授業の目的・ねらい] ・保育実習Ⅰから得た知識や技術に基づき、これらを総合的に実践する応用力を培う。 ・実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。					
[授業全体の内容の概要] ・保育の理論と実践的な学習を積み重ね、実習が充実した実践の場となるよう学びを深めていく。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] ・保育実習Ⅰ(保育所・施設)の目的を理解し、1年次の学びを踏まえ、保育の現場で積極的に実習に取り組む。 ・観察・参加実習を通して、保育の流れや展開について理解し、実践に活かす。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流③<実践・グループワーク> 2. 指導計画に基づき保育の実践を行う。1Aと交流④<実践・グループワーク> 3. 保育実践から学んだことを振り返る。保育実習ⅡⅢ個人票作成。<レポート作成・個人ワーク> 4. 保育実習Ⅲ日誌作成、オリエンテーションについて<講義> 5. 日誌の書き方について講義する<講義> 6. 保育実習Ⅲに向けて保育技術のスキルアップを図る。<講義・グループワーク> 7. 保育実習Ⅲ実習目標、目的の確認をする。<講義・グループワーク> 8. 実習指導案作成を行う。〈個人ワーク〉 9. 実習指導案について共有し、意見交換を行う。〈発表・グループワーク〉 10.保育実習ⅡⅢの最終事前指導を行う。<講義・個人ワーク> 11.保育実習Ⅲのお礼状、振り返りシート等事後指導を行う。<講義・個人ワーク> 12.保育実習Ⅲ実習報告<発表・グループワーク> 13.保育実習ⅡⅢ実習報告会<発表・グループワーク> 14.保育実習ⅡⅢ実習報告会<発表・グループワーク> 15.まとめと解説					
[履修に当たっての留意点] 実習日誌準備、指導計画等、実習に直結する授業になる。事後の振り返りは個別面談を行う。。					
[使用テキスト・参考文献] これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規)		[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価			

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
保育実践演習		演習		霜田 道代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
30	60(2)	福祉保育学科・2年・前期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園勤務の経験を活かし、保育の現場で知っておくと役に立つ基礎知識やスキルを、実践を通して伝える。保育の実践を通して省察を繰り返し、クラスの仲間と意見しあいながら実践経験を積んでいけるよう指導する。					
[授業の目的・ねらい] ・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。					
[授業全体の内容の概要] ・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。					
[授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。 ・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。					
[授業の日程と各界のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 授業内容の説明 / 新聞紙遊び(新聞バッグを作ろう)＜講義・個人ワーク＞					
2. 新聞紙遊び(新聞紙シアター他)＜講義・個人ワーク＞					
3. 春探し散歩実践＜講義・グループワーク＞					
4. ドキュメンテーション作成＜講義・グループワーク＞					
5. 集団遊び＜講義・実践＞					
6. 保育業界の気になるニュースについて考察する＜講義・グループワーク＞					
7. 紙芝居実践＜講義・グループワーク＞					
8. 子どもと食について考える＜講義・グループワーク＞					
9. 手遊び実践＜講義・グループワーク＞					
10. 七夕製作、和紙染＜講義・グループワーク＞					
11. 七夕製作、飾りつけ＜実践＞					
12. 事例考察(保育体験の事例から)＜講義・個人ワーク＞					
13. 障害、多様性について考察する(絵本『さっちゃんのまほうのて』より)＜講義・グループワーク＞					
14. SDGsについて＜講義・ディベート＞					
15. SDGsと保育について＜講義・ディベート＞					
[履修に当たっての留意点] クラス内のディスカッションの機会を多くあるので、自分の意見を持ち、言えるようにしてほしい。					
[使用テキスト・参考文献] 授業に必要なプリントは随時用意します。 『保育する力』学校法人三幸学園こども未来会議			[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
保育実践演習		演習		霜田 道代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
30	60(2)	福祉保育学科・2年・後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 保育園勤務の経験を活かし、保育の現場で知っておくと役に立つ基礎知識やスキルを、実践を通して伝える。保育の実践を通して省察を繰り返し、クラスの仲間と意見しあいながら実践経験を積んでいけるよう指導する。					
[授業の目的・ねらい] ・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢の理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。					
[授業全体の内容の概要] ・保育の様々な場面に即したテーマを選定し、実践に必要な情報収集や教材研究に取り組む中で、学生同士の同僚性を高めながらワークに取り組み、広がり・深まりのある保育の実践につなげていく。					
授業終了時の達成課題(到達目標)] ・保育の専門職としての知識や技術を活かした企画および実践演習を通して、学生一人ひとりが「思考力」「判断力」「表現力」を発揮し、実践と協働による達成感を味わう。・福祉保育学科での学習知と実習等で学んだ指導方法や技術及び実践方法の統合を図り、保育者に求められる姿勢への理解と確かな指導力・実践力の向上を図る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 廃材工作①保育とSDGsについて考察する<講義・グループワーク> 2. 廃材工作②実践を振り返る<発表・グループワーク> 3. 事例考察(保育実践から考察する)<講義・ディスカッション> 4. 子どもの「けんか」について考察する<講義・ディスカッション> 5. 「こどもかいぎ」について考察する<講義・ディスカッション> 6. クリスマス会の計画を立てる<実践> 7. クリスマス会の計画に基づき準備を行う<実践> 8. クリスマス会実践<発表> 9. 身近なものを使った伝承遊び<講義・個人ワーク> 10. メッセージカードの製作<個人ワーク> 11. 伝承遊び<実践> 12. メッセージカードの製作<個人ワーク> 13. メッセージカードの製作<個人ワーク> 14. メッセージカード発表<発表> 15. メッセージカード製作についての振り返り<ディスカッション>					
[履修に当たっての留意点] クラス内のディスカッションの機会を多くあるので、自分の意見を持ち、言えるようにしてほしい。					
[使用テキスト・参考文献] 授業に必要なプリントは随時用意します。 『保育する力』学校法人三幸学園こども未来会議			[単位認定の方法及び基準] ・授業態度及び課題への取り組み ・提出物 ・発表 などを総合的に評価		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
障害者スポーツ		演習		星野 邦彦	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
15	30(1)	福祉保育学科 2年 後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 日本パラスポーツ協会及び群馬県障がい者スポーツ指導者競技会の指導者として、障がい者スポーツ大会の運営等に携わった経験をもとに、実技も含めながら授業を展開していく。					
[授業の目的・ねらい] 障がい者が豊かな社会生活を送るために、障がい者スポーツや文化・芸術活動の果たす役割も大きい。障がい者スポーツでは、重度障がい者の参加にも考慮しつつ、生活の中で楽しむことができるスポーツ、さらには競技としてのスポーツを積極的に推進すべきであり、障がい者スポーツ振興の理解と、その援助法を中心に習得することを目的とする。					
[授業全体の内容の概要] 障がい者を取り巻く地域社会での福祉施策やスポーツ心理・レクリエーションの意義、障がい区分とスポーツ活動やスポーツ傷害の予防と処置、健康づくりとリハビリテーションの意義、障がい者スポーツの実施と障がい者のために工夫されたスポーツを学習する。「初級障がい者スポーツ指導員」資格を取得する。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 障がい者スポーツの意義、特性、支援・援助方法を理解できる。 障がい区分に応じた基本的な支援・援助方法を身につけることができる。 障がい者スポーツ指導員としての資質を身につけ、生活の中でスポーツに親しめるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. オリエンテーション スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質について説明する。 2. 障がい者スポーツの意義と理念について説明する。 3. コミュニケーションスキルの基礎について説明する。 4. 障がいのある人との交流について説明する。 5. 障がい者スポーツに関する諸施策について説明する。 6. 障がい者スポーツ推進の取り組み・安全管理について説明する。 7. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(シッティングバレー) 8. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(フライングディスク)) 9. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(車いすスラローム) 10. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ペタンク) 11. 障がいに応じたスポーツの工夫・実施(ゴールボール) 12. 各障がいの理解について説明する。 13. 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫について説明する。 14. 全国障がい者スポーツ大会の概要について説明する。 15. まとめ					
[履修に当たっての留意点] 日本障がい者スポーツ協会が認定する資格なので、すべての講義を受講することが必要である。					
[使用テキスト・参考文献] (公財)日本障がい者スポーツ協会 [編] 「障がいのある人のスポーツ指導教本(初級・中級)」 ぎょうせい			[単位認定の方法及び基準] 出席・授業態度50%、実技・レポート試験50%により総合評価をおこなう。		

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
障害者支援/手話		演習		山田浩臣・桑原裕子	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
8	15(1/2)	福祉保育学科2年 後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性） 聴覚障がい者の暮らし、歴史、活動、福祉などを、当事者である聴覚障がいを持つ講師と、さまざまな場面で手話通訳経験を積んだ手話通訳士とペアとなり、聴覚障がい者の理解を深める講義と手話実技の指導にあたります。					
[授業の目的・ねらい] 1. 手話を学ぶ事を通して、聴覚障がい者と関わりを深め、聴覚障がい者の生活・歴史・福祉など社会における聴覚障がい者の現状を学び、見た目では解りにくい「障がい」を理解し社会的要因について学びます。 2. コミュニケーション手段として、基本的な手話技術を学びます。また、手話を学ぶことでコミュニケーションの必要性や伝えることの大切さを学びます。					
[授業全体の内容の概要] 講義と手話実技					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 聴覚障がい者問題への理解、コミュニケーション手段として、手話技術を身につけます。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1. 講義 ガイダンス					

授 業 概 要

授業のタイトル(教科名)		授業の種類		授業担当者	
障害者支援/点字		演習		岡田 記代	
授業の回数	時間数(単位数)	配当学科・学年・時期		必修・選択	
8	15(1/2)	福祉保育学科2年 後期		必修	
実務経験のある教員による授業科目（実務経験の概要と授業との関連性）					
[授業の目的・ねらい]					
1. 点字の概要・歴史を学び視覚障害者にとって点字の持つ役割を理解する。					
2. 実際に点字の読み書きを行うことで点字技術を習得する。					
3. 視覚障害者への理解を深め思いやりのある気持ちを育てる。					
[授業全体の内容の概要]					
点字の歴史を含む点字技術を主に学ぶが単に技術習得にはとどまらず、実際に視覚障害者と出会った時にどうするか、どのような支援ができるかなど、広く視覚障害者の現況や福祉制度についても理解を深める。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)]					
1. 視覚障害者の現状をまなび、その福祉制度について理解する。					
2. 点字の歴史と点字の発見が視覚障害者に果たした役割を学ぶことで、視覚障害者の歴史を理解できる。					
3.点字の読み書きに習熟する(簡単な文章の読み書きができる)。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					
コマ数					
1. 点字の歴史・点字の概要について解説する【講義】					
2. 点字の読み書きの基礎を学ぶ【講義・実習】					
3. 点字の表記について学ぶ①（ 仮名遣い・数字。アルファベット ）【講義・実習】					
4. 点字の表記について学ぶ②（ 分かち書き ）【講義・実習】					
5. 書き方の実際①（ 記号等 ）【講義・実習】					
6. 視覚障害者の状況や福祉制度について/書き方の実際②（ 手紙の書き方 ）【講義・実習】					
7. 課題点訳（長文点訳の完成）【実習】					
8. まとめと復習【講義・筆記テスト】					
[履修に当たっての留意点]					
授業中に与えられた課題で時間内に終わらなかったものは、次回までに仕上げて提出する。点字習得は困難ではあるが、実際に課題に取り組みつつ完成させることで点字の初級レベルの読み書き能力を習得する。					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
初めての点訳 第3版			毎回の課題等の提出物の評価		
特定非営利活動法人全国視覚障害者情報提供施設協会編集・発行			課題の長文の点訳の評価		
			提出物20% 課題点訳50% 筆記テスト30%		